

アップグレードおよびマイグレーションガイド

Novell® Identity Manager

4.0.1

2011 年 04 月 15 日

www.novell.com



保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、この文書の内容または使用について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また文書の商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容を改訂または変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような改訂または変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の下で提供される製品または技術情報はすべて、米国の輸出管理規定およびその他の国の輸出関連法規の制限を受けます。お客様は、すべての輸出規制を遵守し、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出に関する詳細については、[Novell International Trade Services の Web ページ \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/) を参照してください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2007-2011 Novell, Inc. All rights reserved. 本ドキュメントの一部または全体を無断で複製転載することは、その形態を問わず禁じます。

Novell, Inc.
404 Wyman Street, Suite 500
Waltham, MA 02451
U.S.A.
www.novell.com

オンラインマニュアル: 本製品とその他の Novell 製品の最新のオンラインマニュアルにアクセスするには、[Novell マニュアルの Web ページ \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

Novell の商標

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

サードパーティ資料

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。

目次

このガイドについて	5
1 よくある質問とその回答	7
1.1 Identity Manager 4.0.1 の新機能？	7
1.2 Identity Manager の Advanced Edition と Standard Edition の違いは何ですか？	7
1.3 Identity Manager のアップグレードまたはマイグレーションの計画方法は？	7
1.4 どのようなトレーニングが利用可能ですか？	7
1.4.1 Novell トレーニングサービス	8
1.4.2 無料トレーニング	8
1.4.3 製品マニュアル	8
1.5 Novell には、アップグレードまたはマイグレーションの援助を行うコミュニティサポートが存在しますか？	8
2 アップグレードとマイグレーションでサポートされるバージョンとシステム要件	9
2.1 アップグレード	9
2.1.1 アップグレードがサポートされているバージョン	9
2.1.2 システム要件	10
2.2 マイグレーション	10
2.2.1 サポートされているマイグレーションのバージョン	10
2.2.2 システム要件	10
3 アップグレードまたはマイグレーション	11
3.1 アップグレード	11
3.2 マイグレーション	12
3.3 単一のドライバセットに関連付けられた複数のサーバ	12
4 アップグレードの実行	13
4.1 Identity Manager 4.0.1 Standard Edition から Identity Manager 4.0.1 Advanced Edition へのアップグレード	14
4.1.1 メタディレクトリサーバのアップグレード	14
4.1.2 ユーザアプリケーションのアップグレード	14
4.1.3 Identity Reporting Module のアップグレード	15
4.2 Identity Manager 4.0 Advanced Edition から Identity Manager 4.0.1 Advanced Edition へのアップグレード	16
4.3 ユーザアプリケーション 3.7 を使用する Identity Manager 3.6.1 の Identity Manager 4.0.1 Advanced Edition へのアップグレード	18
4.4 ユーザアプリケーション 3.6.1 を使用する Identity Manager 3.6.1 の Identity Manager 4.0.1 Advanced Edition へのアップグレード	20
4.5 ユーザアプリケーション 3.6.1 を使用する Identity Manager 3.6 の Identity Manager 4.0.1 Standard Edition へのアップグレード	23
4.6 ユーザアプリケーション 3.5.1 を使用する Identity Manager 3.6.1 の Identity Manager 4.0.1 Advanced Edition へのアップグレード	25
4.7 ユーザアプリケーション 3.6.1(非プロビジョニングバージョン) を使用する Identity Manager 3.5.1 の Identity Manager 4.0.1 Standard Edition へのアップグレード	28
4.8 現在の環境設定のバックアップの作成	30

4.8.1	Designer プロジェクトが最新のものであることを確認する	30
4.8.2	ドライバのエクスポートの作成	32
4.9	iManager のアップグレード	33
4.10	ドライバの停止	33
4.10.1	Designer を使用したドライバの停止	34
4.10.2	iManager を使用したドライバの停止	34
4.11	Analyzer のアップグレード	34
4.12	Designer のアップグレード	35
4.13	メタディレクトリサーバのアップグレード	36
4.13.1	GUI のアップグレード	36
4.13.2	サイレントアップグレード	37
4.14	リモートローダのアップグレード	38
4.15	ドライバのパッケージへのアップグレード	39
4.15.1	新しいドライバの作成	39
4.15.2	既存のコンテンツをパッケージのコンテンツと交換	39
4.15.3	現在のコンテンツを維持しつつパッケージを使用する新しいコンテンツを追加	40
4.16	ドライバへのカスタムポリシーとルールの復元	41
4.16.1	Designer を使用したドライバへのカスタムポリシーとルールの復元	41
4.16.2	iManager を使用したドライバへのカスタムポリシーおよびルールの復元	42
4.17	既存のドライバ環境設定ファイルと新しいドライバのオーバーレイ (非推奨)	43
4.17.1	Designer を使用した既存のドライバ環境設定ファイルと新しいドライバのオーバーレイ	43
4.17.2	iManager を使用した既存のドライバ環境設定ファイルと新しいドライバのオーバーレイ	44
4.18	変換されたプロジェクトの展開	44
4.19	ドライバの起動	44
4.19.1	Designer を使用したドライバの起動	45
4.19.2	iManager を使用したドライバの起動	45
4.20	ユーザアプリケーションのアップグレード	46
4.21	Identity Reporting Module のアップグレード	46

5 マイグレーションの実行 47

5.1	マイグレーションのチェックリスト	47
5.2	新しいサーバをドライバセットに追加する	49
5.3	サーバ固有の情報のコピー	49
5.3.1	Designer でサーバ固有の情報をコピーする	49
5.3.2	iManager でサーバ固有の情報を変更する	50
5.4	ドライバセットから古いサーバを削除する	51
5.4.1	Designer を使用してドライバセットから古いサーバを削除する	51
5.4.2	iManager を使用してドライバセットから古いサーバを削除する	51
5.4.3	古いサーバの退役	51

このガイドについて

Novell Identity Manager は、アプリケーション、ディレクトリ、およびデータベース間で情報を共有するためのデータ共有および同期サービスです。Identity Manager を使用すると、分散された識別情報を統合、管理、および制御できるため、適切なユーザーに適切なリソースを安全に提供できます。Novell Identity Manager は、小規模企業から多国籍企業に至るまで、さまざまな企業やその他の組織から長年評価されてきました。

現在の環境で効率的に実装できるよう、Identity Manager マネージャを計画する時間を設けることは極めて重要です。現在の環境で効率的な Identity Manager ソリューションを作成するには、最初に時間をかけてソリューションを計画および設計する必要があります。Identity Manager ソリューションの計画に関する詳細については、『[Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド](#)』の「計画」を参照してください。

このガイドの内容

このガイドでは、Identity Manager システムのアップグレードまたはマイグレーションに関する情報が記載されています。

- ◆ [7 ページの第 1 章「よくある質問とその回答」](#)
- ◆ [9 ページの第 2 章「アップグレードとマイグレーションでサポートされるバージョンとシステム要件」](#)
- ◆ [11 ページの第 3 章「アップグレードまたはマイグレーション」](#)
- ◆ [13 ページの第 4 章「アップグレードの実行」](#)
- ◆ [47 ページの第 5 章「マイグレーションの実行」](#)

対象者

このガイドは、Identity Manager の計画および導入を行う管理者、コンサルタント、およびネットワークエンジニアを対象としています。

マニュアルの更新

このマニュアルの最新のバージョンについては、[Identity Manager のマニュアルの Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/idm401/index.html\)](#) を参照してください。

追加のマニュアル

Identity Manager ドライバの追加マニュアルについては、[Identity Manager ドライバのマニュアル Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/idm401drivers/index.html\)](#) を参照してください。

ユーザーアプリケーションマニュアルについては、[Identity Manager Roles Based Provisioning Module マニュアル Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/idmrbpm401/index.html\)](#) を参照してください。

よくある質問とその回答

1

すでにいくつかご質問をあるかと思えます。以下では回答の一部を説明します。

- ◆ 7 ページのセクション 1.1 「Identity Manager 4.0.1 の新機能？」
- ◆ 7 ページのセクション 1.2 「Identity Manager の Advanced Edition と Standard Edition の違いは何ですか？」
- ◆ 7 ページのセクション 1.3 「Identity Manager のアップグレードまたはマイグレーションの計画方法は？」
- ◆ 7 ページのセクション 1.4 「どのようなトレーニングが利用可能ですか？」
- ◆ 8 ページのセクション 1.5 「Novell には、アップグレードまたはマイグレーションの援助を行うコミュニティサポートが存在しますか？」

1.1 Identity Manager 4.0.1 の新機能？

『Identity Manager 4.0.1 概要ガイド』の「新機能」セクションには、Identity Manager 4.0.1 の新機能の簡単な要約が記載されています。数分間お時間をいただき、このセクションをお読みください。

Identity Manager ソリューションを構成するさまざまなコンポーネントについて疑問がある場合、各コンポーネントの詳細については、『Identity Manager 4.0.1 概要ガイド』を参照してください。

1.2 Identity Manager の Advanced Edition と Standard Edition の違いは何ですか？

Identity Manager Advanced Edition と Identity Manager Standard Edition にはいくつか異なる点があります。これらの違いは、『Identity Manager 4.0.1 概要ガイド』で詳しく説明されています。

1.3 Identity Manager のアップグレードまたはマイグレーションの計画方法は？

Identity Manager のアップグレードまたはマイグレーションは慎重に計画する必要があります。アップグレードの計画および実施に役立つ情報の詳細については、Novell ソリューションパートナーの Web サイト (<http://www.novell.com/partners/>) で提携オプションを参照してください。Novell エデュケーションでは、Identity Manager の実装を扱う各種コースも用意しています。

1.4 どのようなトレーニングが利用可能ですか？

必要なトレーニングを受けるために、以下のような手段が用意されています。

- ◆ 8 ページのセクション 1.4.1 「Novell トレーニングサービス」

- ◆ 8 ページのセクション 1.4.2 「無料トレーニング」
- ◆ 8 ページのセクション 1.4.3 「製品マニュアル」

1.4.1 Novell トレーニングサービス

新しいニーズが特定され、コースが開発されると、Novell の認定およびトレーニングに関するオプションが定期的に変更されます。上記やその他のトレーニングオプションの詳細については、www.novell.com/training (<http://www.novell.com/training>) から、Identity Manager Novell トレーニング Web サイトにアクセスしてください。

- ◆ Novell Advanced Technical Training および Novell のその他のサービスが開催される日付、および最寄りの開催地について調べるには、www.novell.com/training/pep/map.html (<http://www.novell.com/training/pep/map.html>) にアクセスしてください。
- ◆ Novell Advanced Technical Training に関する追加情報を得るには、technicaltraining@novell.com (technicaltraining@novell.com) に電子メールを送信してください。
- ◆ Technical Training Newsletter を購読するには、<http://www.novell.com/info/list> (<http://www.novell.com/info/list>) を参照してください。

1.4.2 無料トレーニング

Identity Manager 4.0 Advanced Edition の優れた入門情報を入手するには、Identity Manager 製品 Web サイト (<http://www.novell.com/products/identitymanager/>) を参照してください。

Identity Manager の使用開始を容易にするために、Novell では、Web 上でいくつかのトレーニング教材を無償で提供しています (<http://www.novell.com/training/freelearning/course/view.php?id=130>)。

1.4.3 製品マニュアル

このガイドには、特定のトピックまたはコンポーネントに関連する相互参照が含まれています。Novell のマニュアルのサイトで必要な情報が得られない場合は、コメントを追加して何が足りないかをご報告いただければ、お客様が必要な回答を得られるようになります。Identity Manager 4.0.1 のマニュアルは、Identity Manager のマニュアルの Web サイト (<http://www.novell.com/documentation/idm401/index.html>) から入手できます。

1.5 Novell には、アップグレードまたはマイグレーションの援助を行うコミュニティサポートが存在しますか？

Cool Solutions (<http://www.novell.com/communities/cool solutions/>) を通じて、他の管理者と交流し、質問をし、マイグレーション関連の特定の質問に対する回答を得ることができます。

アップグレードとマイグレーションでサポートされるバージョンとシステム要件

以下の情報を使用して、ご利用中の Identity Manager のバージョンが、アップグレードまたはマイグレーションでサポートされているかどうか確認してください。アップグレードとは、既存のハードウェア上のソフトウェアを更新する場合のことです。マイグレーションとは、新しいハードウェアとソフトウェアの新しいバージョンに移行する場合のことです。

- [9 ページのセクション 2.1 「アップグレード」](#)
- [10 ページのセクション 2.2 「マイグレーション」](#)

2.1 アップグレード

- [9 ページのセクション 2.1.1 「アップグレードがサポートされているバージョン」](#)
- [10 ページのセクション 2.1.2 「システム要件」](#)

2.1.1 アップグレードがサポートされているバージョン

次の表には、Identity Manager の以前のバージョンからのアップグレードのサポート対象が示されています。

表 2-1 アップグレードがサポートされているバージョン

インストール済みのバージョン	新しいバージョン	サポートされているアップグレード
DirXML 1.1a	Identity Manager 4.0.1	いいえ
Identity Manager 2.x	Identity Manager 4.0.1	X
Identity Manager 3.0.x	Identity Manager 4.0.1	X
Identity Manager 3.5.x ¹	Identity Manager 4.0.1	○
Identity Manager 3.6.x ¹	Identity Manager 4.0.1	○
Identity Manager 4.0	Identity Manager 4.0.1	○

¹Roles Based Provisioning Module を実行中の場合は、アップグレードは実行できません。マイグレーションを実行する必要があります。詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0 User Application: Migration Guide](#)』を参照してください。

2.1.2 システム要件

Identity Manager 4.0.1 にアップグレードするには、Identity Manager サービスを実行するサーバが、最小要件を満たしている必要があります。プラットフォームごとの最小要件のリストについては、『[Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド](#)』の「[システム要件](#)」を参照してください。

2.2 マイグレーション

- ◆ [10 ページのセクション 2.2.1 「サポートされているマイグレーションのバージョン」](#)
- ◆ [10 ページのセクション 2.2.2 「システム要件」](#)

2.2.1 サポートされているマイグレーションのバージョン

次の表には、Identity Manager の以前のバージョン向けにサポートされているマイグレーションパスが示されています。

表 2-2 サポートされているマイグレーションのバージョン

インストール済みのバージョン	新しいバージョン	サポートされているアップグレード
DirXML 1.1a	Identity Manager 4.0.1	いいえ
Identity Manager 2.x	Identity Manager 4.0.1	X
Identity Manager 3.0.x	Identity Manager 4.0.1	X
Identity Manager 3.5.x	Identity Manager 4.0.1	○
Identity Manager 3.6.x	Identity Manager 4.0.1	○
Identity Manager 4.0	Identity Manager 4.0.1	はい

2.2.2 システム要件

Identity Manager 4.0.1 に移行するには、Identity Manager サービスを実行するサーバが、最小要件を満たしている必要があります。プラットフォームごとの最小要件のリストについては、『[Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド](#)』の「[システム要件](#)」を参照してください。

アップグレードまたはマイグレーション

次の項では、既存の Identity Manager ソリューションのアップグレードまたはマイグレーションについて説明します。

- ◆ 11 ページのセクション 3.1 「アップグレード」
- ◆ 12 ページのセクション 3.2 「マイグレーション」
- ◆ 12 ページのセクション 3.3 「単一のドライバセットに関連付けられた複数のサーバ」

3.1 アップグレード

アップグレードとは、既存のサーバに Identity Manager の新しいバージョンをインストールすることです。Identity Manager をインストールするには、Identity Manager 4.0.1 がサポートするバージョンのオペレーティングシステムおよび eDirectory に現在のバージョンをアップグレードする必要があります。サポートされるプラットフォームのリストについては、『*Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド*』の「システム要件」を参照してください。

アップグレードの実行にはいくつかの利点があります。

- ◆ 新しいハードウェアは必要ない
- ◆ データのマイグレーションは必要ない

アップグレードの実行にはいくつかの欠点もあります。

- ◆ eDirectory をアップデートして再起動する時間がダウンタイムになる

アップグレードが実行可能ではない場合、または複数のアップグレードを実行する必要がある場合が生じることもあります。サポートされているマイグレーションパスは Identity Manager 3.5.x 以降のみなので、以下のシナリオで説明されるのは、これらのバージョンのみになります。

アップグレードがサポートされている唯一の環境は、Identity Manager 3.5.x または Identity Manager 3.6.x がサポートされているオペレーティングシステムで使用されている環境のみです。ただし、アップグレードが実行できないいくつかのシナリオがあります。次に例を示します。

- ◆ **サポートされていない OS:** オペレーティングシステムの現在のバージョンが Identity Manager 4.0.1 でサポートされていない場合には、サポートされるアップグレードパスは、新しいサーバへのマイグレーションのみになります。
- ◆ **Identity Manager 3.0.x:** Identity Manager の現在のバージョンが 3.0.x に場合、直接アップグレードは実行できません。オプションには次の 2 つがあります。
 - ◆ Identity Manager 3.5.x へのアップグレードと eDirectory 8.8.6 へのアップグレードを行ってから、Identity Manager 4.0.1 へのアップグレードを行います。
 - ◆ 新しいサーバへのマイグレーションを実行します。

- ◆ **Roles Based Provisioning Module:** Roles Based Provisioning Module をインストールしている場合は、アップグレードを実行できません。マイグレーションを実行する必要があります。詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0 User Application: Migration Guide](#)』を参照してください。

アップグレードを行う場合には、13 ページの第 4 章「アップグレードの実行」に進んでください。

3.2 マイグレーション

マイグレーションとは、Identity Manager 4.0.1 を新しいサーバにインストールし、その後で既存のデータを新しいサーバに移行することです。インストールが完了したか確認するには、『[Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド](#)』の「[基本的な Identity Manager システムのチェックリスト](#)」に従います。

マイグレーションを実行する利点は、ドライバのダウンタイムを最小限に抑えられることです。欠点は、新しいハードウェアが必要になることです。

マイグレーションを実行する場合には、47 ページの第 5 章「マイグレーションの実行」に進んでください。

3.3 単一のドライバセットに関連付けられた複数のサーバ

1 つのドライバセットに複数のサーバを関連付けている場合、一度に 1 台のサーバに対してアップグレードまたはマイグレーションを実行することができます。サーバすべてをアップグレードする時間がない場合、各サーバのアップグレードが完了するまでは、ドライバは異なるバージョンの Identity Manager に対して動作します。

Identity Manager エンジンには下位互換性があるため、Identity Manager 4.0.1 エンジンは問題なく Identity Manager 3.6.x ドライバを実行できます。

重要: Identity Manager 4.0 以降でのみサポートされているドライバの機能を有効にした場合、バージョンが混在しているサーバでは、ドライバは動作を停止します。古いエンジンは新しい機能を扱うことができません。そのため、すべてのサーバを Identity Manager 4.0 以降にアップグレードするまでは、ドライバは動作しません。

アップグレードの実行

開始する前に、アップグレードとマイグレーションとの相違点を確認してください。11ページの第3章「アップグレードまたはマイグレーション」を参照してください。

以下のアップグレードシナリオがサポートされています。

- ◆ 14 ページのセクション 4.1「Identity Manager 4.0.1 Standard Edition から Identity Manager 4.0.1 Advanced Edition へのアップグレード」
- ◆ 16 ページのセクション 4.2「Identity Manager 4.0 Advanced Edition から Identity Manager 4.0.1 Advanced Edition へのアップグレード」
- ◆ 18 ページのセクション 4.3「ユーザアプリケーション 3.7 を使用する Identity Manager 3.6.1 の Identity Manager 4.0.1 Advanced Edition へのアップグレード」
- ◆ 20 ページのセクション 4.4「ユーザアプリケーション 3.6.1 を使用する Identity Manager 3.6.1 の Identity Manager 4.0.1 Advanced Edition へのアップグレード」
- ◆ 23 ページのセクション 4.5「ユーザアプリケーション 3.6.1 を使用する Identity Manager 3.6 の Identity Manager 4.0.1 Standard Edition へのアップグレード」
- ◆ 25 ページのセクション 4.6「ユーザアプリケーション 3.5.1 を使用する Identity Manager 3.6.1 の Identity Manager 4.0.1 Advanced Edition へのアップグレード」
- ◆ 28 ページのセクション 4.7「ユーザアプリケーション 3.6.1(非プロビジョニングバージョン) を使用する Identity Manager 3.5.1 の Identity Manager 4.0.1 Standard Edition へのアップグレード」
- ◆ 30 ページのセクション 4.8「現在の環境設定のバックアップの作成」
- ◆ 33 ページのセクション 4.9「iManager のアップグレード」
- ◆ 33 ページのセクション 4.10「ドライバの停止」
- ◆ 34 ページのセクション 4.11「Analyzer のアップグレード」
- ◆ 35 ページのセクション 4.12「Designer のアップグレード」
- ◆ 36 ページのセクション 4.13「メタディレクトリサーバのアップグレード」
- ◆ 38 ページのセクション 4.14「リモートローダのアップグレード」
- ◆ 39 ページのセクション 4.15「ドライバのパッケージへのアップグレード」
- ◆ 41 ページのセクション 4.16「ドライバへのカスタムポリシーとルールの復元」
- ◆ 43 ページのセクション 4.17「既存のドライバ環境設定ファイルと新しいドライバのオーバーレイ(非推奨)」
- ◆ 44 ページのセクション 4.18「変換されたプロジェクトの展開」
- ◆ 44 ページのセクション 4.19「ドライバの起動」
- ◆ 46 ページのセクション 4.20「ユーザアプリケーションのアップグレード」
- ◆ 46 ページのセクション 4.21「Identity Reporting Module のアップグレード」

次の項では、Identity Manager をアップグレードするのに必要な各手順の詳細について説明します。

- ◆ 30 ページのセクション 4.8「現在の環境設定のバックアップの作成」
- ◆ 33 ページのセクション 4.9「iManager のアップグレード」

- ◆ 33 ページのセクション 4.10 「ドライバの停止」
- ◆ 34 ページのセクション 4.11 「Analyzer のアップグレード」
- ◆ 35 ページのセクション 4.12 「Designer のアップグレード」
- ◆ 36 ページのセクション 4.13 「メタディレクトリサーバのアップグレード」
- ◆ 38 ページのセクション 4.14 「リモートローダのアップグレード」
- ◆ 39 ページのセクション 4.15 「ドライバのパッケージへのアップグレード」
- ◆ 41 ページのセクション 4.16 「ドライバへのカスタムポリシーとルールの復元」
- ◆ 43 ページのセクション 4.17 「既存のドライバ環境設定ファイルと新しいドライバのオーバーレイ (非推奨)」
- ◆ 44 ページのセクション 4.18 「変換されたプロジェクトの展開」
- ◆ 44 ページのセクション 4.19 「ドライバの起動」
- ◆ 46 ページのセクション 4.20 「ユーザアプリケーションのアップグレード」
- ◆ 46 ページのセクション 4.21 「Identity Reporting Module のアップグレード」

4.1 Identity Manager 4.0.1 Standard Edition から Identity Manager 4.0.1 Advanced Edition へのアップグレード

Identity Manager 4.0.1 Standard Edition を Identity Manager 4.0.1 Advanced Edition にアップグレードするには、Identity Manager コンポーネントの環境設定を変更する必要があります。Standard Edition から Identity Manager Advanced Edition にアップグレードする場合、Identity Manager インストーラを実行する必要はありません。役割マッピング管理者は、Standard Edition では使用できません。役割マッピング管理者を使用するには、別途インストールする必要があります。役割マッピング管理者をインストールするには、『[Identity Manager Role Mapping Administrator 4.0.1 インストールおよび環境設定ガイド](#)』を参照してください。

Identity Manager Standard Edition を Advanced Edition にアップグレードするには、次の手順を実行します。

- ◆ 14 ページのセクション 4.1.1 「メタディレクトリサーバのアップグレード」
- ◆ 14 ページのセクション 4.1.2 「ユーザアプリケーションのアップグレード」
- ◆ 15 ページのセクション 4.1.3 「Identity Reporting Module のアップグレード」

4.1.1 メタディレクトリサーバのアップグレード

iManager で、Identity Manager 4.0 Advanced Edition のアクティベーションを適用してください。Identity Manager 4.0 Advanced Edition のアクティベーションを適用しないと、メタディレクトリサーバのアップグレードは続行されません。

4.1.2 ユーザアプリケーションのアップグレード

1 JBoss サーバを停止します。

- ◆ **Linux:** /etc/init.d/jboss_init stop コマンドを実行します。

- ◆ **Windows:** <RBPM Installation Location>/UserApplication/stop-jboss.bat コマンドを実行します。
- 2 Identity Manager Standard Edition のインストールサブディレクトリから <RBPM installation directory>/configupdate.sh を実行します。
たとえば、Windows では、次のコマンドを実行します。
C:\Novell\IdentityManager\rbpm\UserApplication\configupdate.bat
デフォルトでは、インストーラがコンソールモードで実行されます。GUI モードの場合は、configupdate.bat ファイルの中で -use_console true Java コマンドの引数を -use_console false に置き換えます。
 - 3 -edit_admin setting to true の値を変更し、管理者フィールドを編集します。
管理者フィールドは、デフォルトでは無効になっています。
 - 4 [役割ベースプロビジョニングモジュール環境設定] パネルのデフォルトのビューで、次のフィールドに入力します。
 - ◆ <Tab> キーを押すと、プロンプトが表示されます。[はい] をクリックすると、[役割ベースプロビジョニングモジュール環境設定] ページの [識別ボールド DN] セクションに追加の管理者フィールドが表示されます。
 - ◆ 管理者をユーザアプリケーション管理者以外にする場合、適切なユーザを使用してすべての管理者フィールドを更新します。
 - ◆ 高度なオプションが表示されているか確認します。[詳細オプションの表示] をクリックし、高度なオプションを表示します。
 - 5 [その他] セクションで、[Reinitialize RBPM Security] チェックボックスをオンにし、[OK] をクリックします。
 - 6 JBoss サーバを起動します。
 - ◆ **Linux:** /etc/init.d/jboss_init start コマンドを実行します。
 - ◆ **Windows:** <RBPM Installation Location>/UserApplication/start-jboss.bat コマンドを実行します。
 これにより、WAR ファイルが再展開されます。JBoss クラスタで実行中の場合、WAR ファイルはこのクラスタの各 JBoss サーバで更新される必要があります。

4.1.3 Identity Reporting Module のアップグレード

- 1 Designer を使用して、Managed System Gateway Driver (MSGW) ドライバを設定します。
『[Identity Reporting Module Guide](#)』の「[Configuring the Managed System Gateway Driver](#)」セクションを参照してください。
- 2 データ収集サービス (DCS) の Identity Manager ドライバの環境設定情報を更新します。Designer を起動し、[DCS Driver Configuration] > [Driver Parameters] > [Driver Options] に移動します。
[Managed System Gateway Registration] セクションで、次の設定を変更します。
 - ◆ [Set Register Manage System Gateway] を [はい] に変更します。
 - ◆ [MSGW Driver DN] を変更します。たとえば、[CN=Managed System Gateway Driver,cn=driverset1,o=system] などです。
 - ◆ ユーザ DN を変更します。たとえば、cn=admin,ou=sa,o=system などです。
 - ◆ ユーザ DN のパスワードを指定します。

ドライバの設定に関する詳細については、『[Identity Reporting Module Guide](#)』の「[Configuring the Identity Manager Driver for Data Collection Service](#)」セクションを参照してください。

- 3 設定を保存し、DCS ドライバを展開します。
- 4 DCS ドライバを再起動します。
- 5 Identity Manager 4.0.1 Advanced Edition のレポートテンプレートを [Identity Reporting](#) (<http://cdn.novell.com/cached/designer/idmrpt/>) のダウンロードページからダウンロードします。

Identity Reporting Module をアップグレードしても、すぐには Advanced Version が表示されない可能性があります。バージョンの変更は、イベントの次のバッチが処理された後に行われます。

4.2 Identity Manager 4.0 Advanced Edition から Identity Manager 4.0.1 Advanced Edition へのアップグレード

Identity Manager サーバごとに、以下の手順を従います。

- 1 Identity Manager の ISO ファイルをダウンロードしたことを確認します。詳細については、『[Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド](#)』の「[Identity Manager の入手場所](#)」を参照してください。
- 2 Designer 4.0.1 にアップグレードします。詳細については、[35 ページのセクション 4.12 「Designer のアップグレード」](#)を参照してください。
- 3 Identity Manager ソリューションの Designer プロジェクトを作成することで、Identity Manager ソリューションの現在の環境設定のバックアップを作成します。詳細については、[30 ページのセクション 4.8 「現在の環境設定のバックアップの作成」](#)を参照してください。
- 4 (オプション)Analyzer を使用している場合は Analyzer 4.0.1 にアップグレードします。詳細については、[34 ページのセクション 4.11 「Analyzer のアップグレード」](#)を参照してください。
- 5 アップグレードするサーバに関連付けられたドライバを停止します。詳細については、[33 ページのセクション 4.10 「ドライバの停止」](#)を参照してください。
- 6 Metadirectory サーバをアップグレードします。詳細については、[36 ページのセクション 4.13 「メタディレクトリサーバのアップグレード」](#)を参照してください。
- 7 (条件付き) このサーバのドライバセットのいずれかのドライバがリモートローダドライバである場合には、ドライバごとにリモートローダサーバをアップグレードします。詳細については、[38 ページのセクション 4.14 「リモートローダのアップグレード」](#)を参照してください。
- 8 (オプション) ユーザアプリケーションサーバがある場合、以下の追加の手順を実行します。
 - 8a ユーザアプリケーションパッケージを 4.0 から 4.0.1 にアップグレードします。

- 8b アップグレードしたユーザアプリケーションドライバを識別ポルトに展開します。詳細については、『[Migrating to the Roles Based Provisioning Module Version 4.0.1](#)』ガイドを参照してください。
- 8c ユーザアプリケーションをアップグレードします。詳細については、『[Migrating to the Roles Based Provisioning Module Version 4.0.1](#)』ガイドを参照してください。
- 9 役割マッピング管理者をインストールします。詳細については、『[Identity Manager Role Mapping Administrator 4.0.1 インストールおよび環境設定ガイド](#)』を参照してください。
- 10 (オプション) ドライバをアップグレードします。
 - 10a ドライバの環境設定ファイルの代わりにパッケージを使用する場合は、既存のドライバのパッケージをアップグレードし、新しいポリシーを取得します。この手順は、パッケージのより新しいバージョンが入手可能で、ドライバのポリシーに既存のドライバに追加する新しい機能が含まれている場合にのみ必要です。詳細については、「[Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド](#)」の「[Upgrading Installed Packages](#)」を参照してください。

または
 - 10b 環境設定ファイルを使用している場合、新しいドライバの環境設定ファイルを既存のドライバにオーバーレイし、新しいポリシーを取得します。これは、ドライバのポリシーに、既存のドライバに追加したい新しい機能が含まれている場合にのみ、必要です。詳細については、[43 ページのセクション 4.17 「既存のドライバ環境設定ファイルと新しいドライバのオーバーレイ \(非推奨\)」](#)を参照してください。
- 11 (オプション) カスタムポリシーとルールをドライバに復元します。新しいドライバ環境設定ファイルをオーバーレイした場合には、ポリシーが上書きされるので、ポリシーの復元は、新しいドライバ環境設定ファイルをオーバーレイした場合にのみ必要となります。詳細については、[41 ページのセクション 4.16 「ドライバへのカスタムポリシーとルールの復元」](#)を参照してください。
- 12 このサーバに関連付けられたドライバを起動します。詳細については、[44 ページのセクション 4.19 「ドライバの起動」](#)を参照してください。
- 13 Identity Reporting Module をアップグレードします。
 - 13a DCS ドライバパッケージを最新バージョンにアップグレードします。
 - 13b MSGW ドライバパッケージを最新バージョンにアップグレードします。
 - 13c EAS を 4.0.1 バージョンにアップグレードします。

Identity Reporting モジュールのアップグレードに関する詳細については、[46 ページのセクション 4.21 「Identity Reporting Module のアップグレード」](#)を参照してください。
- 14 (オプション) Novell Sentinel を使用している場合、最新のサービスパックを実行しているかどうか確認します。Sentinel のアップグレードの詳細については、『[Sentinel インストールガイド](#)(http://www.novell.com/documentation/sentinel6/pdfdoc/sentinel60_installationguide.pdf)』を参照してください。
- 15 メタディレクトリサーバとアップグレードしたすべてのドライバをアクティベートします。詳細については、『[Identity Manager 4.0.1 Framework Installation Guide](#)』の「[Activating Novell Identity Manager Products](#)」を参照してください。

4.3 ユーザアプリケーション 3.7 を使用する Identity Manager 3.6.1 の Identity Manager 4.0.1 Advanced Edition へのアップグレード

Identity Manager サーバごとに、以下の手順を従います。

- 1 Identity Manager の ISO ファイルをダウンロードしたことを確認します。詳細については、『[Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド](#)』の「[Identity Manager の入手場所](#)」を参照してください。
- 2 Designer 4.0.1 にアップグレードします。詳細については、[35 ページのセクション 4.12 「Designer のアップグレード」](#)を参照してください。
- 3 Identity Manager ソリューションの Designer プロジェクトを作成することで、Identity Manager ソリューションの現在の環境設定のバックアップを作成します。詳細については、[30 ページのセクション 4.8 「現在の環境設定のバックアップの作成」](#)を参照してください。

- 4 Identity Manager を実行しているサーバのオペレーティングシステムが、サポートされているバージョンであることを確認します。サポートされているオペレーティングシステムのリストについては、『[Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド](#)』の「[システム要件](#)」を参照してください。システム要件を満たすためにサービスパックのみが必要なオペレーティングシステムの場合は、アップグレードに進みます。

ご使用のオペレーティングシステムが Identity Manager 4.0.1 でサポートされるプラットフォームのリストに記載されていない場合、Identity Manager のアップグレードを実行する前にオペレーティングシステムをサポートされているバージョンにアップグレードするか、アップグレードの代わりにマイグレーションを実行する必要があります。

- 5 Designer 4.0.1 にアップグレードします。詳細については、[35 ページのセクション 4.12 「Designer のアップグレード」](#)を参照してください。
- 6 Identity Manager を実行するサーバで、eDirectory を 8.8.6 以降にアップグレードします。詳細については、『[Novell eDirectory 8.8 インストールガイド \(http://www.novell.com/documentation/edir88/\)](#)』を参照してください。eDirectory をアップグレードすると ndsd が停止し、その結果、すべてのドライバが停止します。
- 7 ドライバを起動し、ドライバが起動したことを確認します。これにより、eDirectory 8.8.6 へのアップグレードが正常に終了したことも確認できます。詳細については、[44 ページのセクション 4.19 「ドライバの起動」](#)を参照してください。

注：この手順は、32 ビットの Identity Manager から他の 32 ビットのバージョンにアップグレードする場合にのみ実行します。32 ビットから 64 ビットの Identity Manager にアップグレードする場合、手順 8 に進みます。

eDirectory 8.8.6 へのアップグレード後に、Identity Manager および Identity Manager のドライバを正常に実行するための詳細については、[TID 7007184 \(http://www.novell.com/support/viewContent.do?externalId=7007184&sliceId=1\)](#) を参照してください。

- 8 Designer プロジェクトを変換します。詳細については、「[Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド](#)」の「[以前のプロジェクトの変換](#)」を参照してください。

- 9 アップグレードするサーバに関連付けられたドライバを停止します。詳細については、[33 ページのセクション 4.10 「ドライバの停止」](#)を参照してください。
- 10 Metadirectory サーバをアップグレードします。詳細については、[36 ページのセクション 4.13 「メタディレクトリサーバのアップグレード」](#)を参照してください。
- 11 (条件付き) このサーバのドライバセットのいずれかのドライバがリモートローダドライバである場合には、ドライバごとにリモートローダサーバをアップグレードします。詳細については、[38 ページのセクション 4.14 「リモートローダのアップグレード」](#)を参照してください。
- 12 (オプション) ユーザアプリケーションサーバがある場合、以下の追加の手順を実行します。
 - 12a 役割とリソースに対する大文字と小文字が混在する検索をサポートするために、NrfCaseUpdate ユーティリティを実行します。このプロシージャは nrfLocalizedDescrs および nrfLocalizedNames 属性 (ユーザアプリケーションで使用される) を変更することによってスキーマを更新します。詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0.1 ユーザアプリケーション: インストールガイド](#)』の「[NrfCaseUpdate ユーティリティの実行](#)」を参照してください。
 - 12b ユーザアプリケーションドライバを Designer 4.0.1 で移行する必要があります。詳細については、『[Migrating to the Roles Based Provisioning Module Version 4.0.1](#)』ガイドを参照してください。
 - 12c 新しい役割およびリソースサービスドライバを作成します。役割およびリソースサービスドライバは移行されません。既存の役割およびリソースサービスドライバを使用している場合、それを削除し、Identity Manager 4.0.1 用に新しいドライバを作成します。詳細については、『[Migrating to the Roles Based Provisioning Module Version 4.0.1](#)』を参照してください。
 - 12d 移行したユーザアプリケーションドライバおよび役割ドライバとリソースドライバを Identity Vault に展開します。詳細については、『[Migrating to the Roles Based Provisioning Module Version 4.0.1](#)』ガイドを参照してください。
 - 12e ユーザアプリケーションをアップグレードします。詳細については、『[Migrating to the Roles Based Provisioning Module Version 4.0.1](#)』ガイドを参照してください。
- 13 (オプション) 役割マッピング管理者をインストールします。詳細については、『[Identity Manager Role Mapping Administrator 4.0.1 インストールおよび環境設定ガイド](#)』を参照してください。
- 14 (オプション) ドライバをアップグレードします。
 - 14a ドライバの環境設定ファイルの代わりにパッケージを使用する場合は、既存のドライバのパッケージをアップグレードし、新しいポリシーを取得します。この手順は、パッケージのより新しいバージョンが入手可能で、ドライバのポリシーに既存のドライバに追加する新しい機能が含まれている場合にのみ必要です。詳細については、「[Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド](#)」の「[Upgrading Installed Packages](#)」を参照してください。

または
 - 14b 環境設定ファイルを使用している場合、新しいドライバの環境設定ファイルを既存のドライバにオーバーレイし、新しいポリシーを取得します。これは、ドライバのポリシーに、既存のドライバに追加したい新しい機能が含まれている場合にのみ、必要です。詳細については、[43 ページのセクション 4.17 「既存のドライバ環境設定ファイルと新しいドライバのオーバーレイ \(非推奨\)」](#)を参照してください。

- 15 (オプション) カスタムポリシーとルールをドライバに復元します。新しいドライバ環境設定ファイルをオーバーレイした場合には、ポリシーが上書きされるので、ポリシーの復元は、新しいドライバ環境設定ファイルをオーバーレイした場合にのみ必要となります。詳細については、[41 ページのセクション 4.16 「ドライバへのカスタムポリシーとルールの復元」](#)を参照してください。
- 16 変換された Designer プロジェクトを識別ボールドに展開します。詳細については、『[Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド](#)』の「[展開とエクスポート](#)」を参照してください。
- 17 このサーバに関連付けられたドライバを起動します。詳細については、[44 ページのセクション 4.19 「ドライバの起動」](#)を参照してください。
- 18 (オプション) Identity Reporting Module をインストールします。詳細については、『[Identity Reporting Module Guide](#)』の「[Installation and Driver Configuration](#)」を参照してください。
- 19 (オプション) Novell Sentinel を使用している場合、Novell Sentinel 6.1 に更新する必要があります。Sentinel のアップグレードに関する詳細については、『[Sentinel インストールガイド \(http://www.novell.com/documentation/sentinel6/pdfdoc/sentinel60_installationguide.pdf\)](#)』を参照してください。
- 20 メタディレクトリサーバとアップグレードしたすべてのドライバをアクティベートします。詳細については、『[Identity Manager 4.0.1 Framework Installation Guide](#)』の「[Activating Novell Identity Manager Products](#)」を参照してください。

4.4 ユーザアプリケーション 3.6.1 を使用する Identity Manager 3.6.1 の Identity Manager 4.0.1 Advanced Edition へのアップグレード

Identity Manager サーバごとに、以下の手順を従います。

- 1 Identity Manager の ISO ファイルをダウンロードしたことを確認します。詳細については、『[Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド](#)』の「[Identity Manager の入手場所](#)」を参照してください。
- 2 Designer 4.0.1 にアップグレードします。詳細については、[35 ページのセクション 4.12 「Designer のアップグレード」](#)を参照してください。
- 3 Identity Manager ソリューションの現在の環境設定のバックアップを作成します。これは、ドライバのエクスポートを作成するか、または Identity Manager ソリューションの Designer プロジェクトを作成することによって行います。詳細については、[30 ページのセクション 4.8 「現在の環境設定のバックアップの作成」](#)を参照してください。
- 4 Identity Manager を実行しているサーバのオペレーティングシステムが、サポートされているバージョンであることを確認します。サポートされているオペレーティングシステムのリストについては、『[Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド](#)』の「[システム要件](#)」を参照してください。システム要件を満たすためにサービスパックのみが必要なオペレーティングシステムの場合は、アップグレードに進みます。

ご使用のオペレーティングシステムが Identity Manager 4.0.1 でサポートされるプラットフォームのリストに記載されていない場合、Identity Manager のアップグレードを実行する前にオペレーティングシステムをサポートされているバージョンにアップグレードするか、アップグレードの代わりにマイグレーションを実行する必要があります。

- 5 Identity Manager を実行するサーバで、eDirectory を 8.8.6 以降にアップグレードします。詳細については、『[Novell eDirectory 8.8 インストールガイド](http://www.novell.com/documentation/edir88/) (<http://www.novell.com/documentation/edir88/>)』を参照してください。
- 6 ドライバを起動し、ドライバが起動したことを確認します。これにより、eDirectory 8.8.6 へのアップグレードが正常に終了したことも確認できます。詳細については、[44 ページのセクション 4.19 「ドライバの起動」](#) を参照してください。

注：この手順は、32 ビットの Identity Manager から他の 32 ビットのバージョンにアップグレードする場合にのみ実行します。32 ビットから 64 ビットの Identity Manager にアップグレードする場合、この手順はスキップします。

eDirectory 8.8.6 へのアップグレード後に、Identity Manager および Identity Manager のドライバを正常に実行するための詳細については、[TID 7007184](http://www.novell.com/support/viewContent.do?externalId=7007184&sliceId=1) (<http://www.novell.com/support/viewContent.do?externalId=7007184&sliceId=1>) を参照してください。

- 7 Designer プロジェクトを変換します。詳細については、「[Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド](#)」の「[以前のプロジェクトの変換](#)」を参照してください。
- 8 アップグレードするサーバに関連付けられたドライバを停止します。詳細については、[33 ページのセクション 4.10 「ドライバの停止」](#) を参照してください。
- 9 Metadirectory サーバをアップグレードします。詳細については、[36 ページのセクション 4.13 「メタディレクトリサーバのアップグレード」](#) を参照してください。
- 10 (条件付き) このサーバのドライバセットのいずれかのドライバがリモートローダドライバである場合には、ドライバごとにリモートローダサーバをアップグレードします。詳細については、[38 ページのセクション 4.14 「リモートローダのアップグレード」](#) を参照してください。
- 11 (オプション) ユーザアプリケーションサーバがある場合、以下の追加の手順を実行します。
 - 11a 役割とリソースに対する大文字と小文字が混在する検索をサポートするために、NrfCaseUpdate ユーティリティを実行します。このプロシージャは nrfLocalizedDescrs および nrfLocalizedNames 属性 (ユーザアプリケーションで使用される) を変更することによってスキーマを更新します。詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0.1 ユーザアプリケーション: インストールガイド](#)』の「[NrfCaseUpdate ユーティリティの実行](#)」を参照してください。
 - 11b Designer 4.0.1. でユーザアプリケーションドライバを移行する必要があります。詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0 User Application: Migration Guide](#)』を参照してください。
 - 11c 新しい役割およびリソースサービスドライバを作成します。役割およびリソースサービスドライバは移行されません。既存の役割およびリソースサービスドライバを使用している場合、それを削除し、Identity Manager 4.0.1 用に新しいドライバを作成します。詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0 User Application: Migration Guide](#)』を参照してください。

- 11d** 移行したユーザアプリケーションドライバおよび役割ドライバとリソースドライバを Identity Vault に展開します。詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0 User Application: Migration Guide](#)』を参照してください。
- 11e** ユーザアプリケーションをアップグレードします。詳細については、『[Migrating to the Roles Based Provisioning Module Version 4.0.1](#)』ガイドを参照してください。
- 12** (オプション) 役割マッピング管理者をインストールします。詳細については、『[Identity Manager Role Mapping Administrator 4.0.1 インストールおよび環境設定ガイド](#)』を参照してください。
- 13** (オプション) ドライバをアップグレードします。
- 13a** ドライバの環境設定ファイルの代わりにパッケージを使用する場合は、既存のドライバのパッケージをアップグレードし、新しいポリシーを取得します。この手順は、パッケージのより新しいバージョンが入手可能で、ドライバのポリシーに既存のドライバに追加する新しい機能が含まれている場合にのみ必要です。詳細については、「[Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド](#)」の「[Upgrading Installed Packages](#)」を参照してください。
- または
- 13b** 環境設定ファイルを使用している場合、新しいドライバの環境設定ファイルを既存のドライバにオーバーレイし、新しいポリシーを取得します。これは、ドライバのポリシーに、既存のドライバに追加したい新しい機能が含まれている場合にのみ、必要です。詳細については、[43 ページのセクション 4.17 「既存のドライバ環境設定ファイルと新しいドライバのオーバーレイ \(非推奨\)」](#)を参照してください。
- 14** (オプション) カスタムポリシーとルールをドライバに復元します。新しいドライバ環境設定ファイルをオーバーレイした場合には、ポリシーが上書きされるので、ポリシーの復元は、新しいドライバ環境設定ファイルをオーバーレイした場合にのみ必要となります。詳細については、[41 ページのセクション 4.16 「ドライバへのカスタムポリシーとルールの復元」](#)を参照してください。
- 15** 変換された Designer プロジェクトを識別ボルトに展開します。詳細については、『[Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド](#)』の「[展開とエクスポート](#)」を参照してください。
- 16** このサーバに関連付けられたドライバを起動します。詳細については、[44 ページのセクション 4.19 「ドライバの起動」](#)を参照してください。
- 17** (オプション) Identity Reporting Module をインストールします。詳細については、『[Identity Reporting Module Guide](#)』の「[Installation and Driver Configuration](#)」を参照してください。
- 18** (オプション) Novell Sentinel を使用している場合、最新のサービスパックを実行しているかどうか確認します。Sentinel のアップグレードの詳細については、『[Sentinel インストールガイド \(\[http://www.novell.com/documentation/sentinel6/pdfdoc/sentinel60_installationguide.pdf\]\(http://www.novell.com/documentation/sentinel6/pdfdoc/sentinel60_installationguide.pdf\)\)](#)』を参照してください。
- 19** メタディレクトリサーバとアップグレードしたすべてのドライバをアクティベートします。詳細については、『[Identity Manager 4.0.1 Framework Installation Guide](#)』の「[Activating Novell Identity Manager Products](#)」を参照してください。

4.5 ユーザアプリケーション 3.6.1 を使用する Identity Manager 3.6 の Identity Manager 4.0.1 Standard Edition へのアップグレード

Identity Manager サーバごとに、以下の手順を従います。

- 1 Identity Manager の ISO ファイルをダウンロードしたことを確認します。詳細については、『[Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド](#)』の「[Identity Manager の入手場所](#)」を参照してください。
- 2 Designer 4.0.1 にアップグレードします。詳細については、[35 ページのセクション 4.12 「Designer のアップグレード」](#)を参照してください。
- 3 Identity Manager ソリューションの現在の環境設定のバックアップを作成します。これは、ドライバのエクスポートを作成するか、または Identity Manager ソリューションの Designer プロジェクトを作成することによって行います。詳細については、[30 ページのセクション 4.8 「現在の環境設定のバックアップの作成」](#)を参照してください。
- 4 Identity Manager を実行しているサーバのオペレーティングシステムが、サポートされているバージョンであることを確認します。サポートされているオペレーティングシステムのリストについては、『[Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド](#)』の「[システム要件](#)」を参照してください。システム要件を満たすためにサービスパックのみが必要なオペレーティングシステムの場合は、アップグレードに進みます。
ご使用のオペレーティングシステムが Identity Manager 4.0.1 でサポートされるプラットフォームのリストに記載されていない場合、Identity Manager のアップグレードを実行する前にオペレーティングシステムをサポートされているバージョンにアップグレードするか、アップグレードの代わりにマイグレーションを実行する必要があります。
- 5 iManager サーバを iManager 2.7.4 にアップグレードします。詳細については、[33 ページのセクション 4.9 「iManager のアップグレード」](#)を参照してください。
- 6 Identity Manager を実行するサーバで、eDirectory を 8.8.6 以降にアップグレードします。eDirectory をアップグレードすると ndsd が停止し、その結果、すべてのドライバが停止します。
詳細については、『[Novell eDirectory 8.8 インストールガイド](#) (<http://www.novell.com/documentation/edir88/>)』を参照してください。
- 7 (オプション) ドライバを起動し、ドライバが起動することを確認します。これにより、eDirectory 8.8.6 へのアップグレードが正常に終了したことも確認できます。詳細については、[44 ページのセクション 4.19 「ドライバの起動」](#)を参照してください。

注：この手順は、32 ビットの Identity Manager から他の 32 ビットのバージョンにアップグレードする場合にのみ実行します。32 ビットから 64 ビットの Identity Manager にアップグレードする場合、手順 8 に進みます。

eDirectory 8.8.6 へのアップグレード後に、Identity Manager および Identity Manager のドライバを正常に実行するための詳細については、[TID 7007184 \(http://www.novell.com/support/viewContent.do?externalId=7007184&sliceId=1\)](http://www.novell.com/support/viewContent.do?externalId=7007184&sliceId=1) を参照してください。

- 8 Designer プロジェクトを変換します。詳細については、「[Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド](#)」の「[以前のプロジェクトの変換](#)」を参照してください。
- 9 Metadirectory サーバをアップグレードします。詳細については、[36 ページのセクション 4.13](#)「[メタディレクトリサーバのアップグレード](#)」を参照してください。
- 10 (条件付き) このサーバのドライバセットのいずれかのドライバがリモートローダドライバである場合には、ドライバごとにリモートローダサーバをアップグレードします。詳細については、[38 ページのセクション 4.14](#)「[リモートローダのアップグレード](#)」を参照してください。
- 11 (オプション) ユーザアプリケーションサーバがある場合、以下の追加の手順を実行します。
 - 11a 役割とリソースに対する大文字と小文字が混在する検索をサポートするために、NrfCaseUpdate ユーティリティを実行します。このプロシージャは nrfLocalizedDescrs および nrfLocalizedNames 属性 (ユーザアプリケーションで使用される) を変更することによってスキーマを更新します。詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0.1 ユーザアプリケーション: インストールガイド](#)』の「[NrfCaseUpdate ユーティリティの実行](#)」を参照してください。
 - 11b Designer 4.0.1. でユーザアプリケーションドライバを移行する必要があります。詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0 User Application: Migration Guide](#)』を参照してください。
 - 11c 新しい役割およびリソースサービスドライバを作成します。役割およびリソースサービスドライバは移行されません。既存の役割およびリソースサービスドライバを使用している場合、それを削除し、Identity Manager 4.0.1 用に新しいドライバを作成します。詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0 User Application: Migration Guide](#)』を参照してください。
 - 11d 移行したユーザアプリケーションドライバおよび役割ドライバとリソースドライバを Identity Vault に展開します。詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0 User Application: Migration Guide](#)』を参照してください。
 - 11e ユーザアプリケーションをアップグレードします。詳細については、『[Migrating to the Roles Based Provisioning Module Version 4.0.1](#)』ガイドを参照してください。
- 12 (オプション) ドライバをアップグレードします。
 - 12a ドライバの環境設定ファイルの代わりにパッケージを使用する場合は、既存のドライバのパッケージをアップグレードし、新しいポリシーを取得します。この手順は、パッケージのより新しいバージョンが入手可能で、ドライバのポリシーに既存のドライバに追加する新しい機能が含まれている場合にのみ必要です。詳細については、「[Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド](#)」の「[Upgrading Installed Packages](#)」を参照してください。

または
 - 12b 環境設定ファイルを使用している場合、新しいドライバの環境設定ファイルを既存のドライバにオーバーレイし、新しいポリシーを取得します。これは、ドライバのポリシーに、既存のドライバに追加したい新しい機能が含まれている場合にのみ、必要です。詳細については、[43 ページのセクション 4.17](#)「[既存のドライバ環境設定ファイルと新しいドライバのオーバーレイ \(非推奨\)](#)」を参照してください。

- 13 (オプション) カスタムポリシーとルールをドライバに復元します。新しいドライバ環境設定ファイルをオーバーレイした場合には、ポリシーが上書きされるので、ポリシーの復元は、新しいドライバ環境設定ファイルをオーバーレイした場合にのみ必要となります。詳細については、[41 ページのセクション 4.16 「ドライバへのカスタムポリシーとルールの復元」](#)を参照してください。
- 14 変換された Designer プロジェクトを識別ボールドに展開します。詳細については、『[Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド](#)』の「[展開とエクスポート](#)」を参照してください。
- 15 このサーバに関連付けられたドライバを起動します。詳細については、[44 ページのセクション 4.19 「ドライバの起動」](#)を参照してください。
- 16 (オプション)Novell Sentinel を使用している場合、最新のサービスパックを実行しているかどうか確認します。Sentinel のアップグレードの詳細については、『[Sentinel インストールガイド](http://www.novell.com/documentation/sentinel6/pdfdoc/sentinel60_installationguide.pdf)(http://www.novell.com/documentation/sentinel6/pdfdoc/sentinel60_installationguide.pdf)』を参照してください。
- 17 (オプション)Identity Reporting Module をインストールします。詳細については、『[Identity Reporting Module Guide](#)』の「[Installation and Driver Configuration](#)」を参照してください。
- 18 メタディレクトリサーバとアップグレードしたすべてのドライバをアクティベートします。詳細については、『[Identity Manager 4.0.1 Framework Installation Guide](#)』の「[Activating Novell Identity Manager Products](#)」を参照してください。

4.6 ユーザアプリケーション 3.5.1 を使用する Identity Manager 3.6.1 の Identity Manager 4.0.1 Advanced Edition へのアップグレード

Identity Manager サーバごとに、以下の手順を従います。

- 1 Identity Manager の ISO ファイルをダウンロードしたことを確認します。詳細については、『[Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド](#)』の「[Identity Manager の入手場所](#)」を参照してください。
- 2 Designer 4.0.1 にアップグレードします。詳細については、[35 ページのセクション 4.12 「Designer のアップグレード」](#)を参照してください。
- 3 Identity Manager ソリューションの現在の環境設定のバックアップを作成します。これは、ドライバのエクスポートを作成するか、または Identity Manager ソリューションの Designer プロジェクトを作成することによって行います。詳細については、[30 ページのセクション 4.8 「現在の環境設定のバックアップの作成」](#)を参照してください。
- 4 Identity Manager を実行しているサーバのオペレーティングシステムが、サポートされているバージョンであることを確認します。サポートされているオペレーティングシステムのリストについては、『[Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド](#)』の「[システム要件](#)」を参照してください。システム要件を満たすためにサービスパックのみが必要なオペレーティングシステムの場合は、アップグレードに進みます。

ご使用のオペレーティングシステムが Identity Manager 4.0.1 でサポートされるプラットフォームのリストに記載されていない場合、Identity Manager のアップグレードを実行する前にオペレーティングシステムをサポートされているバージョンにアップグレードするか、アップグレードの代わりにマイグレーションを実行する必要があります。

- 5 iManager サーバを iManager 2.7.4 にアップグレードします。詳細については、[33 ページのセクション 4.9 「iManager のアップグレード」](#) を参照してください。
- 6 アップグレードするサーバに関連付けられたドライバを停止します。詳細については、[33 ページのセクション 4.10 「ドライバの停止」](#) を参照してください。
- 7 Identity Manager を実行するサーバで、eDirectory を 8.8.6 以降にアップグレードします。eDirectory をアップグレードすると ndsd が停止し、その結果、すべてのドライバが停止します。
詳細については、『[Novell eDirectory 8.8 インストールガイド](http://www.novell.com/documentation/edir88/) (<http://www.novell.com/documentation/edir88/>)』を参照してください。
- 8 (オプション) ドライバを起動し、ドライバが起動することを確認します。これにより、eDirectory 8.8.6 へのアップグレードが正常に終了したことも確認できます。詳細については、[44 ページのセクション 4.19 「ドライバの起動」](#) を参照してください。

注：この手順は、32 ビットの Identity Manager から他の 32 ビットのバージョンにアップグレードする場合にのみ実行します。32 ビットから 64 ビットの Identity Manager にアップグレードする場合、手順 9 に進みます。

eDirectory 8.8.6 へのアップグレード後に、Identity Manager および Identity Manager のドライバを正常に実行するための詳細については、[TID 7007184](http://www.novell.com/support/viewContent.do?externalId=7007184&sliceId=1) (<http://www.novell.com/support/viewContent.do?externalId=7007184&sliceId=1>) を参照してください。

- 9 Designer プロジェクトを変換します。詳細については、「[Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド](#)」の「[以前のプロジェクトの変換](#)」を参照してください。
- 10 アップグレードするサーバに関連付けられたドライバを停止します。詳細については、[33 ページのセクション 4.10 「ドライバの停止」](#) を参照してください。
- 11 Metadirectory サーバをアップグレードします。詳細については、[36 ページのセクション 4.13 「メタディレクトリサーバのアップグレード」](#) を参照してください。
- 12 (条件付き) このサーバのドライバセットのいずれかのドライバがリモートローダドライバである場合には、ドライバごとにリモートローダサーバをアップグレードします。詳細については、[38 ページのセクション 4.14 「リモートローダのアップグレード」](#) を参照してください。
- 13 (オプション) ユーザアプリケーションサーバがある場合、以下の追加の手順を実行します。
 - 13a 役割とリソースに対する大文字と小文字が混在する検索をサポートするために、NrfCaseUpdate ユーティリティを実行します。このプロシージャは nrfLocalizedDescrs および nrfLocalizedNames 属性 (ユーザアプリケーションで使用される) を変更することによってスキーマを更新します。詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0.1 ユーザアプリケーション: インストールガイド](#)』の「[NrfCaseUpdate ユーティリティの実行](#)」を参照してください。
 - 13b Designer 4.0.1. でユーザアプリケーションドライバを移行する必要があります。詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0 User Application: Migration Guide](#)』を参照してください。

- 13c** 新しい役割およびリソースサービスドライバを作成します。役割およびリソースサービスドライバは移行されません。既存の役割およびリソースサービスドライバを使用している場合、それを削除し、Identity Manager 4.0.1 用に新しいドライバを作成します。詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0 User Application: Migration Guide](#)』を参照してください。
- 13d** 移行したユーザアプリケーションドライバおよび役割ドライバとリソースドライバを Identity Vault に展開します。詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0 User Application: Migration Guide](#)』を参照してください。
- 13e** ユーザアプリケーションをアップグレードします。詳細については、『[Migrating to the Roles Based Provisioning Module Version 4.0.1](#)』ガイドを参照してください。
- 14** (オプション) 役割マッピング管理者をインストールします。詳細については、『[Identity Manager Role Mapping Administrator 4.0.1 インストールおよび環境設定ガイド](#)』を参照してください。
- 15** (オプション) ドライバをアップグレードします。
- 15a** ドライバの環境設定ファイルの代わりにパッケージを使用する場合は、既存のドライバのパッケージをアップグレードし、新しいポリシーを取得します。この手順は、パッケージのより新しいバージョンが入手可能で、ドライバのポリシーに既存のドライバに追加する新しい機能が含まれている場合にのみ必要です。詳細については、「[Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド](#)」の「[Upgrading Installed Packages](#)」を参照してください。
- または
- 15b** 環境設定ファイルを使用している場合、新しいドライバの環境設定ファイルを既存のドライバにオーバーレイし、新しいポリシーを取得します。これは、ドライバのポリシーに、既存のドライバに追加したい新しい機能が含まれている場合にのみ、必要です。詳細については、[43 ページのセクション 4.17 「既存のドライバ環境設定ファイルと新しいドライバのオーバーレイ \(非推奨\)」](#)を参照してください。
- 16** (オプション) カスタムポリシーとルールをドライバに復元します。新しいドライバ環境設定ファイルをオーバーレイした場合には、ポリシーが上書きされるので、ポリシーの復元は、新しいドライバ環境設定ファイルをオーバーレイした場合にのみ必要となります。詳細については、[41 ページのセクション 4.16 「ドライバへのカスタムポリシーとルールの復元」](#)を参照してください。
- 17** 変換された Designer プロジェクトを識別ポータルに展開します。詳細については、「[Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド](#)」の「[展開とエクスポート](#)」を参照してください。
- 18** このサーバに関連付けられたドライバを起動します。詳細については、[44 ページのセクション 4.19 「ドライバの起動」](#)を参照してください。
- 19** (オプション) Identity Reporting Module をインストールします。詳細については、『[Identity Reporting Module Guide](#)』の「[Installation and Driver Configuration](#)」を参照してください。
- 20** (オプション) Novell Sentinel を使用している場合、最新のサービスパックを実行しているかどうか確認します。Sentinel のアップグレードの詳細については、『[Sentinel インストールガイド](#)(http://www.novell.com/documentation/sentinel6/pdfdoc/sentinel60_installationguide.pdf)』を参照してください。
- 21** メタディレクトリサーバとアップグレードしたすべてのドライバをアクティベートします。詳細については、『[Identity Manager 4.0.1 Framework Installation Guide](#)』の「[Activating Novell Identity Manager Products](#)」を参照してください。

4.7 ユーザアプリケーション 3.6.1(非プロビジョニングバージョン)を使用する Identity Manager 3.5.1 の Identity Manager 4.0.1 Standard Edition へのアップグレード

Identity Manager サーバごとに、以下の手順を従います。

- 1 Identity Manager の ISO ファイルをダウンロードしたことを確認します。詳細については、『[Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド](#)』の「[Identity Manager の入手場所](#)」を参照してください。
- 2 Designer 4.0.1 にアップグレードします。詳細については、[35 ページのセクション 4.12 「Designer のアップグレード」](#)を参照してください。
- 3 Identity Manager ソリューションの現在の環境設定のバックアップを作成します。これは、ドライバのエクスポートを作成するか、または Identity Manager ソリューションの Designer プロジェクトを作成することによって行います。詳細については、[30 ページのセクション 4.8 「現在の環境設定のバックアップの作成」](#)を参照してください。
- 4 Identity Manager を実行しているサーバのオペレーティングシステムが、サポートされているバージョンであることを確認します。サポートされているオペレーティングシステムのリストについては、『[Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド](#)』の「[システム要件](#)」を参照してください。システム要件を満たすためにサービスパックのみが必要なオペレーティングシステムの場合は、アップグレードに進みます。

ご使用のオペレーティングシステムが Identity Manager 4.0.1 でサポートされるプラットフォームのリストに記載されていない場合、Identity Manager のアップグレードを実行する前にオペレーティングシステムをサポートされているバージョンにアップグレードするか、アップグレードの代わりにマイグレーションを実行する必要があります。

- 5 Identity Manager を実行するサーバで、eDirectory を 8.8.6 以降にアップグレードします。eDirectory をアップグレードすると ndsd が停止し、その結果、すべてのドライバが停止します。

eDirectory のアップグレードの詳細については、『[Novell eDirectory 8.8 インストールガイド](#) (<http://www.novell.com/documentation/edir88/>)』を参照してください。

- 6 (オプション) ドライバを起動し、ドライバが起動することを確認します。これにより、eDirectory 8.8.6 へのアップグレードが正常に終了したことも確認できます。詳細については、[44 ページのセクション 4.19 「ドライバの起動」](#)を参照してください。

注：この手順は、32 ビットの Identity Manager から他の 32 ビットのバージョンにアップグレードする場合にのみ実行します。32 ビットから 64 ビットの Identity Manager にアップグレードする場合、手順 7 に進みます。

eDirectory 8.8.6 へのアップグレード後に、Identity Manager および Identity Manager のドライバを正常に実行するための詳細については、[TID 7007184](#) (<http://www.novell.com/support/viewContent.do?externalId=7007184&sliceId=1>) を参照してください。

- 7 Designer プロジェクトを変換します。詳細については、「[Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド](#)」の「[以前のプロジェクトの変換](#)」を参照してください。

- 8 アップグレードするサーバに関連付けられたドライバを停止します。詳細については、[33 ページのセクション 4.10 「ドライバの停止」](#)を参照してください。
- 9 Metadirectory サーバをアップグレードします。詳細については、[36 ページのセクション 4.13 「メタディレクトリサーバのアップグレード」](#)を参照してください。
- 10 (条件付き) このサーバのドライバセットのいずれかのドライバがリモートローダドライバである場合には、ドライバごとにリモートローダサーバをアップグレードします。詳細については、[38 ページのセクション 4.14 「リモートローダのアップグレード」](#)を参照してください。
- 11 (オプション) ユーザアプリケーションサーバがある場合、以下の追加の手順を実行します。
 - 11a 役割とリソースに対する大文字と小文字が混在する検索をサポートするために、NrfCaseUpdate ユーティリティを実行します。このプロシージャは nrfLocalizedDescrs および nrfLocalizedNames 属性 (ユーザアプリケーションで使用される) を変更することによってスキーマを更新します。詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0.1 ユーザアプリケーション: インストールガイド](#)』の「[NrfCaseUpdate ユーティリティの実行](#)」を参照してください。
 - 11b Designer 4.0.1. でユーザアプリケーションドライバを移行する必要があります。詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0 User Application: Migration Guide](#)』を参照してください。
 - 11c 新しい役割およびリソースサービスドライバを作成します。役割およびリソースサービスドライバは移行されません。既存の役割およびリソースサービスドライバを使用している場合、それを削除し、Identity Manager 4.0.1 用に新しいドライバを作成します。詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0 User Application: Migration Guide](#)』を参照してください。
 - 11d 移行したユーザアプリケーションドライバおよび役割ドライバとリソースドライバを Identity Vault に展開します。詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0 User Application: Migration Guide](#)』を参照してください。
 - 11e ユーザアプリケーションをアップグレードします。詳細については、『[Migrating to the Roles Based Provisioning Module Version 4.0.1](#)』ガイドを参照してください。
- 12 (オプション) ドライバをアップグレードします。
 - 12a ドライバの環境設定ファイルの代わりにパッケージを使用する場合は、既存のドライバのパッケージをアップグレードし、新しいポリシーを取得します。この手順は、パッケージのより新しいバージョンが入手可能で、ドライバのポリシーに既存のドライバに追加する新しい機能が含まれている場合にのみ必要です。詳細については、「[Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド](#)」の「[Upgrading Installed Packages](#)」を参照してください。

または
 - 12b 環境設定ファイルを使用している場合、新しいドライバの環境設定ファイルを既存のドライバにオーバーレイし、新しいポリシーを取得します。これは、ドライバのポリシーに、既存のドライバに追加したい新しい機能が含まれている場合にのみ、必要です。詳細については、[43 ページのセクション 4.17 「既存のドライバ環境設定ファイルと新しいドライバのオーバーレイ \(非推奨\)」](#)を参照してください。

- 13 (オプション) カスタムポリシーとルールをドライバに復元します。新しいドライバ環境設定ファイルをオーバーレイした場合には、ポリシーが上書きされるので、ポリシーの復元は、新しいドライバ環境設定ファイルをオーバーレイした場合にのみ必要となります。詳細については、[41 ページのセクション 4.16 「ドライバへのカスタムポリシーとルールの復元」](#)を参照してください。
- 14 変換された Designer プロジェクトを識別ボールドに展開します。詳細については、「[Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド](#)」の「[展開とエクスポート](#)」を参照してください。
- 15 このサーバに関連付けられたドライバを起動します。詳細については、[44 ページのセクション 4.19 「ドライバの起動」](#)を参照してください。
- 16 (オプション) Identity Reporting Module をインストールします。詳細については、『[Identity Reporting Module Guide](#)』の「[Installation and Driver Configuration](#)」の章を参照してください。
- 17 (オプション) Novell Sentinel を使用している場合、最新のサービスパックを実行しているかどうか確認します。Sentinel のアップグレードの詳細については、『[Sentinel インストールガイド](#) (http://www.novell.com/documentation/sentinel6/pdfdoc/sentinel60_installationguide.pdf)』を参照してください。
- 18 メタディレクトリサーバとアップグレードしたすべてのドライバをアクティベートします。詳細については、『[Identity Manager 4.0.1 Framework Installation Guide](#)』の「[Activating Novell Identity Manager Products](#)」を参照してください。

4.8 現在の環境設定のバックアップの作成

アップグレードを行う前に、Identity Manager システムの現在の環境設定のバックアップを作成しておくのは大切です。ユーザアプリケーションを使用している場合には、付加的なステップは必要ありません。すべてのユーザアプリケーションの環境設定は、ユーザアプリケーションドライバに保存されます。バックアップを作成するには、次の 2 種類の方法があります。

- ◆ [30 ページのセクション 4.8.1 「Designer プロジェクトが最新のものであることを確認する」](#)
- ◆ [32 ページのセクション 4.8.2 「ドライバのエクスポートの作成」](#)

4.8.1 Designer プロジェクトが最新のものであることを確認する

Designer のプロジェクトには、スキーマおよびすべてのドライバ構成情報が含まれています。Identity Manager ソリューションのプロジェクトを作成すると、ドライバごとに個別のエクスポートファイルを作成する代わりに、すべてのドライバを 1 ステップでエクスポートすることができます。

- ◆ [30 ページの「現在のプロジェクトのエクスポート」](#)
- ◆ [31 ページの「識別ボールドからプロジェクトを新規作成する」](#)

現在のプロジェクトのエクスポート

すでに Designer プロジェクトがある場合には、以下の方法で、プロジェクト内の情報が識別ボールドの内容と同期されているかどうか確認してください。

- 1 Designer で、プロジェクトを開きます。

- 2 モデラーで、[識別ボールド] アイコンを右クリックして、[ライブ] > [比較] の順に選択します。
- 3 プロジェクトを評価し、相違点があれば一致させて、[OK] をクリックします。
詳細については、「[Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド](#)」の「[展開時の比較機能の使用](#)」を参照してください。
- 4 ツールバーで、[プロジェクト] > [エクスポート] を選択します。
- 5 [すべて選択] をクリックして、すべてのリソースをエクスポートするように選択します。
- 6 プロジェクトを保存する場所と、そのフォーマットを選択し、[完了] をクリックします。
プロジェクトは、現在のワークスペースの場所を除き、任意の場所に保存できます。Designer にアップグレードする場合には、ワークスペースロケーションを新規作成する必要があります。詳細については、「[Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド](#)」の「[プロジェクトのエクスポート](#)」を参照してください。

識別ボールドからプロジェクトを新規作成する

現在の Identity Manager ソリューションの Designer プロジェクトがない場合は、現在のソリューションをバックアップするためにプロジェクトを作成する必要があります。

- 1 Designer 4.0.1 のインストール
Designer 4.0.1 を使用して Identity Manager 3.6.x プロジェクトを作成できます。詳細については、『[Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド](#)』の「[Designer のインストール](#)」を参照してください。
- 2 Designer を起動して、ワークスペースの場所を指定します。
- 3 オンラインのアップデートをチェックするかどうかを指定して、[OK] をクリックします。
- 4 [ようこそ] ページで、[Designer の実行] をクリックします。
- 5 ツールバーで、[プロジェクト] > [プロジェクトのインポート] > [識別ボールド] を選択します。
- 6 プロジェクトの名前を指定します。それから、プロジェクトのデフォルトの場所を使用するか、または別の場所を選択します。
- 7 [次へ] をクリックします。
- 8 識別ボールドの接続情報を指定します。
 - ◆ **ホスト名** : 識別ボールドサーバの IP アドレスまたは DNS 名を指定します。
 - ◆ **ユーザ名** : 識別ボールドに認証する際に使用するユーザの DN を指定します。
 - ◆ **パスワード** : 認証ユーザのパスワードを指定します。
- 9 [次へ] をクリックします。
- 10 [識別ボールドのスキーマ] と [デフォルトの通知コレクション] は選択したままにします。
- 11 [デフォルトの通知コレクション] を拡張し、必要のない言語を選択解除します。
デフォルトの通知コレクションは、多くの言語に翻訳されています。すべての言語をインポートすることもできますし、使用する言語だけを選択することもできます。
- 12 [参照] をクリックして、インポートするドライバセットを参照し、選択します。

- 13 この識別ポールのドライバセットごとに**ステップ 12**を繰り返し、[完了] をクリックします。
- 14 プロジェクトがインポートされたら、[OK] をクリックします。
- 15 識別ポールの数が1つだけの場合には、これで完了です。複数の識別ポールがある場合には、**ステップ 16**に進みます。
- 16 ツールバーの [ライブ]> [インポート] をクリックします。
- 17 追加の識別ポールごとに、**ステップ 8**から**ステップ 14**を繰り返します。

4.8.2 ドライバのエクスポートの作成


ドライバのエクスポートを作成することは、現在の環境設定のバックアップを作成することです。ただし、Designer は現在のところ、役割ベースのエンタイトルメントドライバとポリシーのバックアップは作成しません。iManager を使用して、役割ベースのエンタイトルメントドライバをエクスポートしてあるかどうかを確認してください。

- ◆ 32 ページの「Designer を使用したドライバのエクスポートの作成」
- ◆ 32 ページの「iManager を使用したドライバのエクスポートの作成」

Designer を使用したドライバのエクスポートの作成

- 1 Designer のプロジェクトで最新バージョンのドライバが使用されていることを確認します。手順については、「**Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド**」の「**識別ポールのライブラリ、ドライバセット、またはドライバのインポート**」を参照してください。
- 2 モデラーで、アップグレードするドライバのドライバ行を右クリックします。
- 3 [環境設定ファイルのエクスポート] を選択します。
- 4 環境設定ファイルを保存する場所を参照して、[保存] をクリックします。
- 5 [結果] ページで [OK] をクリックします。
- 6 各ドライバに対して、**ステップ 1**～**ステップ 5**を繰り返します。

iManager を使用したドライバのエクスポートの作成

- 1 iManager で、[Identity Manager] > [Identity Manager の概要] の順に選択します。
- 2 ツリーでその場所を参照して選択し、ドライバセットオブジェクトを検索してから、[検索] アイコンをクリックします。
- 3 アップグレードするドライバを格納するドライバセットオブジェクトをクリックします。
- 4 アップグレードするドライバをクリックして、[エクスポート] をクリックします。
- 5 [次へ] をクリックして、[環境設定にリンクされているかどうかにかかわらず、含まれるすべてのポリシーをエクスポート] を選択します。
- 6 [次へ] をクリックし、[名前を付けて保存] をクリックします。
- 7 [ディスクに保存] を選択し、[OK] をクリックします。
- 8 [完了] をクリックします。
- 9 各ドライバに対して、**ステップ 1**～**ステップ 8**を繰り返します。

4.9 iManager のアップグレード

Identity Manager プラグインの更新された機能を使用できるように iManager をアップグレードする必要があります。iManager 2.7.x はサポートされています。

iManager は、Windows または Linux にのみインストールできます。メタディレクトリサーバが Solaris にインストールされている場合、iManager を別のサーバにインストールする必要があります。

iManager を 2.7.x からアップグレードするには

- 1 (オプション) Linux 上にインストールする場合、インストールを起動する前に root でログインします。
- 2 ご利用のプラットフォームで Identity Manager のインストールメディアにアクセスします。
- 3 ご利用のプラットフォームに適した iManager のインストーラを起動します。
 - ◆ **Linux:** IDM4.0.1_Lin/products/iManager/installs/linux/iManagerInstallLinux.bin
バイナリを実行するために、「./iManagerInstallLinux.bin」とインストールディレクトリで入力します。
 - ◆ **Windows:** IDM4.0.1_Win:\product\iManager\installs\win\iManagerinstall.exe
- 4 iManager をインストールする際に使用する言語を選択します。
- 5 使用許諾契約書の条項を確認し、同意します。
- 6 Novell iManager 2.7、Tomcat、および JVM をインストールするように選択します。
- 7 [OK] をクリックし、iManager の以前のバージョンとともにインストールされている Tomcat の古いバージョンを削除します。
- 8 プラグインをダウンロードするには、[はい] をクリックします。
- 9 デフォルトの場所にアクセスし、プラグインをダウンロードします。
- 10 デフォルトで選択されたプラグインをインストールするように選択します。
- 11 ローカルディレクトリからプラグインをインストールするように求められたら、[いいえ] をクリックします。
- 12 Tomcat が実行される HTTP ポートを指定します。デフォルトでは、8080 です。
- 13 Tomcat が実行される SSL ポートを指定します。デフォルトでは、8443 です。
- 14 選択内容を確認し、[OK] をクリックしてアップグレードを実行します。
- 15 インストールが完了したら、Tomcat を再起動して変更を確認します。




iManager 2.6 以前のバージョンがインストールされている場合、『[Novell iManager 2.7 Installation Guide \(http://www.novell.com/documentation/imanager27/imanager_install_27/data/bhxda4r.html\)](http://www.novell.com/documentation/imanager27/imanager_install_27/data/bhxda4r.html)』のアップグレード手順を使用します。

4.10 ドライバの停止



いずれかのファイルをアップグレードする場合、あらかじめドライバを停止しておくことが重要です。

- ◆ 34 ページのセクション 4.10.1 「Designer を使用したドライバの停止」
- ◆ 34 ページのセクション 4.10.2 「iManager を使用したドライバの停止」

4.10.1 Designer を使用したドライバの停止

- 1 Designer で、識別ボールドの  オブジェクトを [アウトライン] タブで選択します。
- 2 モデラーツールバーで、[すべてのドライバを停止] アイコン  をクリックします。
これにより、プロジェクトの一部であるすべてのドライバが停止します。
- 3 ドライバを手動開始に設定すると、アップグレードプロセスを完了しない限りドライバは開始されません。
 - 3a [アウトライン] タブの [ドライバ] アイコン  をダブルクリックします。
 - 3b [ドライバ環境設定] > [起動時のオプション] の順に選択します。
 - 3c [手動] を選択し、[OK] をクリックします。
 - 3d 各ドライバに対して、[ステップ 3a](#) ~ [ステップ 3c](#) を繰り返します。

4.10.2 iManager を使用したドライバの停止

- 1 iManager で、[Identity Manager] > [Identity Manager の概要] の順に選択します。
- 2 ツリーでその場所を参照して選択し、ドライバセットオブジェクトを検索してから、[検索] アイコン  をクリックします。
- 3 ドライバセットオブジェクトをクリックします。
- 4 [ドライバ] > [すべてのドライバを停止] の順にクリックします。
- 5 各ドライバセットオブジェクトに対して、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 4](#) を繰り返します。
- 6 ドライバを手動開始に設定すると、アップグレードプロセスを完了しない限りドライバは開始されません。
 - 6a iManager で、[Identity Manager] > [Identity Manager の概要] の順に選択します。
 - 6b ツリーでその場所を参照して選択し、ドライバセットオブジェクトを検索してから、[検索] アイコン  をクリックします。
 - 6c ドライバセットオブジェクトをクリックします。
 - 6d ドライバアイコンの右上隅をクリックし、[プロパティの編集] をクリックします。
 - 6e [ドライバ環境設定] ページの [起動時のオプション] で [手動] を選択し、[OK] をクリックします。
 - 6f ツリーの各ドライバに対して、[ステップ 6a](#) ~ [ステップ 6e](#) を繰り返します。

4.11 Analyzer のアップグレード

Analyzer をインストールしている場合、それが Identity Manager 4.0.1 で動作するようにアップグレードする必要があります。Analyzer がインストールされていない場合、このセクションをスキップして [35 ページのセクション 4.12 「Designer のアップグレード」](#) を続行します。

Analyzer は、Windows または Linux にのみインストールできます。メタディレクトリサーバが Solaris にインストールされている場合、Analyzer を別のサーバにインストールする必要があります。

Analyzer をアップグレードするには

- 1 Identity Manager のメディアから Analyzer のインストーラを起動します。
 - ◆ **Linux:** IDM4.0.1_Lin/products/Analyzer/install
バイナリファイルを実行するために、「./install」と入力します。
 - ◆ **Windows:** IDM4.0.1_Win:\products\ANALZYER\install.exe
- 2 Analyzer を実行する言語を選択し、使用許諾契約書の条項を確認し、同意します。
- 3 Analyzer がインストールされているディレクトリを指定し、すでに Analyzer がインストールされていることを示すメッセージの中で [はい] をクリックします。
- 4 ショートカットをデスクトップ上に配置するか、デスクトップメニュー内に配置するかを選択します。
- 5 概要を確認して、[インストール] をクリックします。
- 6 インストールの概要を確認し、[Done (完了)] をクリックします。

4.12 Designer のアップグレード

Designer のアップグレード前に、必ずプロジェクトをエクスポートしてバックアップを作成してください。詳細については、「[Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド](#)」の「[プロジェクトのエクスポート](#)」を参照してください。

Designer は、Windows または Linux にのみインストールできます。メタディレクトリサーバが Solaris にインストールされている場合、Designer を別のサーバにインストールする必要があります。

Designer をアップグレードするには

- 1 Identity Manager のメディアから Designer のインストーラを起動します。
 - ◆ **Linux:** IDM4.0.1_Lin/products/Designer/install
バイナリファイルを実行するために、「./install」と入力します。
 - ◆ **Windows:** IDM4.0.1_Win:\products\Designer\install.exe
- 2 Designer をインストールする言語を選択し、使用許諾契約書の条項を確認し、同意します。
- 3 Designer がインストールされているディレクトリを指定し、すでに Designer がインストールされていることを示すメッセージの中で [はい] をクリックします。
- 4 ショートカットをデスクトップ上に配置するか、デスクトップメニュー内に配置するかを選択します。
- 5 概要を確認して、[インストール] をクリックします。
- 6 Readme を確認して、[次へ] をクリックします。
- 7 Designer の起動を選択し、[Done (完了)] をクリックします。
- 8 Designer のワークスペースの場所を指定し、[OK] をクリックします。
- 9 プロジェクトを閉じて変換する必要があることを示す警告メッセージで [OK] をクリックします。
- 10 [プロジェクト] ビューで、プロジェクトを展開し、[Project needs conversion (プロジェクトには変換が必要)] をダブルクリックします。

- 11 プロジェクトコンバータウィザードが実行する手順を確認し、[次へ] をクリックします。
- 12 プロジェクトのバックアップ用に名前を指定し、[次へ] をクリックします。
- 13 変換時に行われる内容の概要を確認し、[Convert (変換)] をクリックします。
- 14 変換終了後に概要を確認し、[開く] をクリックします。

Designer がアップグレードされ、プロジェクトが最新のフォーマットに変換されます。

4.13 メタディレクトリサーバのアップグレード

次の方法で、Identity Manager をアップグレードできます。

- ◆ [36 ページのセクション 4.13.1 「GUI のアップグレード」](#)
- ◆ [37 ページのセクション 4.13.2 「サイレントアップグレード」](#)

注: Solaris で GUI およびサイレントモードの両方で Identity Manager のアップグレードを起動する前に、`./opt/novell/eDirectory/bin/ndspath` コマンドを実行してください。

4.13.1 GUI のアップグレード

サポートコンポーネントをアップグレードしたら、メタディレクトリサーバをアップグレードします。アップグレードプロセス中に、ファイルシステムに保存されているドライバシムファイルがアップグレードされます。

- 1 ドライバを停止していることを確認します。手順については、[33 ページのセクション 4.10 「ドライバの停止」](#) を参照してください。
- 2 Linux の場合、lcache プロセスを停止します。
 - ◆ メタディレクトリサーバとリモートローダが同じサーバ上にある場合、手動で lcache プロセスを停止します。
 - ◆ メタディレクトリサーバとリモートローダが同じサーバ上にない場合、lcache プロセスはアップグレード中に ndsd プロセスによって自動的に停止します。

Windows および Solaris の場合、アップグレードを開始する前に lcache プロセスを強制終了します。

- 3 Identity Manager のメディアからメタディレクトリサーバのインストーラを起動します。
 - ◆ **Linux:** `IDM4.0.1_Lin/products/IDM/install.bin`
 - ◆ **Solaris:** `IDM4.0.1_Solaris/products/IDM/install.bin`
バイナリファイルを実行するために、「`./install.bin`」と入力します。
 - ◆ **Windows:** `IDM4.0.1_Win:\products\IDM\Windows\setup\idm_install.exe`
- 4 インストールに使用する言語を選択し、使用許諾契約書の条項を確認し、同意します。
- 5 メタディレクトリサーバとドライバシムファイルを更新するために、*[Novell Identity Manager Metadirectory Server (Novell Identity Manager メタディレクトリサーバ)]*、*[Novell iManager Plug-ins for Identity Manager (Novell iManager Plug-ins for Identity Manager)]*、および *[Utilities (ユーティリティ)]* オプションを選択します。

- 6 eDirectory に対する管理者権限を持つユーザおよびユーザパスワードを LDAP 形式で指定します。
- 7 概要を確認して、[インストール] をクリックします。
- 8 インストールの概要を読み、[Done (完了)] をクリックします。

注: Identity Manager を 32 ビットから 64 ビットにアップグレードすると、Groupwise ドライバとネイティブカスタムドライバは機能しなくなります。

4.13.2 サイレントアップグレード

Identity Manager コンポーネントのサイレントアップグレードを実行するには、アップグレードを完了するのに必要なパラメータを含むプロパティファイルを作成する必要があります。Identity Manager のメディアにはサンプルファイルが含まれています。

- ◆ **Linux:** IDM4.0.1_Lin/products/IDM/linux/setup/silent.properties
- ◆ **Solaris:** IDM4.0.1_Lin/products/IDM/solaris/setup/silent.properties
- ◆ **Windows:** IDM4.0.1_Win:\products\IDM\Windows\setup\silent.properties

プラットフォーム用の正しいプログラムを使用して、サイレントアップグレードを開始します。

- ◆ **Linux または Solaris:** ./install.bin -i silent -f<ファイル名>.properties

バイナリファイルを実行するために、「./install.bin -i silent -f<ファイル名>.properties」と入力します。

- ◆ **Windows:** IDM4.0.1_Win:\products\IDM\windows\setup\idm_install.exe -i silent -f<ファイル名>.properties

次の属性を Identity Manger のアップグレードを実行する場所にある silent.properties ファイルに設定します。

```
EDIR_USER_NAME=cn=admin,o=test
```

```
EDIR_USER_PASSWORD=test
```

```
METADIRECTORY_SERVER_SELECTED=true
```

```
CONNECTED_SYSTEM_SELECTED=false
```

```
X64_CONNECTED_SYSTEM_SELECTED=true
```

```
WEB_ADMIN_SELECTED=false
```

```
UTILITIES_SELECTED=false
```

注: メタディレクトリサーバのアップグレード中にリモートローダをアップグレードするには、CONNECTED_SYSTEM_SELECTED 属性を true に設定します。

4.14 リモートローダのアップグレード

リモートローダを実行している場合、リモートローダファイルをアップグレードする必要があります。

- 1 リモートローダ環境設定ファイルのバックアップを作成します。このファイルのデフォルトの場所は次のとおりです。
 - ◆ **Windows:** C:\Novell\RemoteLoader\remoteloadername-config.txt
 - ◆ **Linux:** rdxml のパスで独自の環境設定ファイルを作成します。
- 2 ドライバを停止していることを確認します。手順については、[33 ページのセクション 4.10 「ドライバの停止」](#)を参照してください。
- 3 各ドライバのリモートローダサービスまたはデーモンを停止します。
 - ◆ **Windows:** リモートローダコンソールで、リモートローダインスタンスを選択してから、**[停止]** をクリックします。
 - ◆ **Linux:** rdxml -config *path_to_configfile* -u
 - ◆ **Java リモートローダ:** dirxml_jremote -config *path_to_configfile* -u
- 4 Linux の場合、lcache プロセスを停止します。
 - ◆ メタディレクトリサーバとリモートローダが同じサーバ上にある場合、手動で lcache プロセスを停止します。
 - ◆ メタディレクトリサーバとリモートローダが同じサーバ上にない場合、lcache プロセスはアップグレード中に ndsd プロセスによって自動的に停止します。

Windows および Solaris の場合、アップグレードを開始する前に lcache プロセスを強制終了します。
- 5 リモートローダのインストールプログラムを実行します。

インストールプロセスにより、ファイルおよびバイナリが最新バージョンに更新されます。詳細については、『[Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド](#)』の「[リモートローダのインストール](#)」
- 6 インストールが完了したら、環境設定ファイルに現在の環境の情報が含まれていることを確認します。
- 7 (オプション) 環境設定ファイルに問題がある場合は、[ステップ 1](#)で作成しておいたバックアップファイルをコピーします。問題がなければ、[ステップ 8](#)に進みます。
- 8 各ドライバのリモートローダサービスまたはデーモンを起動します。
 - ◆ **Windows:** リモートローダコンソールで、リモートローダインスタンスを選択してから、**[開始]** をクリックします。
 - ◆ **Linux:** rdxml -config *path_to_config_file*
 - ◆ **Java リモートローダ:** dirxml_jremote -config *path_to_config_file*

注: リモートローダを 32 ビットから 64 ビットにアップグレードすると、Groupwise ドライバとネイティブカスタムドライバは機能しなくなります。

4.15 ドライバのパッケージへのアップグレード

パッケージとは、Identity Manager 4.0.1 における新しいコンテンツ管理機能です。すべての新しいドライバコンテンツは、ドライバの環境設定ファイルの代わりにパッケージを使用して提供されます。

パッケージは、Designer を使用して管理、維持、および作成されます。iManager はパッケージに対応していますが、iManager を使用したドライバコンテンツへの変更は Designer では保持されません。パッケージ管理の詳細については、「[Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド](#)」の「[Identity Manager コンテンツの管理](#)」を参照してください。

ドライバをパッケージにアップグレードするには、次の3つの異なる方法があります。

- ◆ [39 ページのセクション 4.15.1 「新しいドライバの作成」](#)
- ◆ [39 ページのセクション 4.15.2 「既存のコンテンツをパッケージのコンテンツと交換」](#)
- ◆ [40 ページのセクション 4.15.3 「現在のコンテンツを維持しつつパッケージを使用する新しいコンテンツを追加」](#)

4.15.1 新しいドライバの作成

ドライバをパッケージにアップグレードする最も簡単な方法は、既存のドライバを削除し、パッケージを使用して新しいドライバを作成する方法です。新しいドライバに必要なすべての機能を追加します。手順はドライバごとに異なります。手順については、[Identity Manager ドライバのマニュアルの Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/idm40drivers/\)](http://www.novell.com/documentation/idm40drivers/) 上の個別のドライバガイドを参照してください。

4.15.2 既存のコンテンツをパッケージのコンテンツと交換

ドライバによって作成された関連付けを維持する必要がある場合、ドライバを削除して再作成しないでください。このオプションを使用すると、関連付けを維持しつつ、パッケージを使用したドライバコンテンツを作成できます。

パッケージからのコンテンツで既存のコンテンツを置き換えるには

- 1 ドライバおよびドライバに含まれるカスタマイズされたすべてのコンテンツのバックアップを作成します。
方法については、[32 ページのセクション 4.8.2 「ドライバのエクスポートの作成」](#)を参照してください。
- 2 Designer で、ドライバ内に保存されているすべてのオブジェクトを削除します。ドライバ内部に保存されているポリシー、フィルタ、エンタイトルメント、および他のすべての項目を削除します。
- 3 パッケージカタログにドライバパッケージをインポートします。
手順については、「[Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド](#)」の「[パッケージカタログへのカタログのインポート](#)」を参照してください。
- 4 ドライバにパッケージをインストールします。
手順については、[Identity Manager ドライバのマニュアルの Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/idm40drivers/\)](http://www.novell.com/documentation/idm40drivers/) 上のそれぞれのドライバガイドを参照してください。

- 5 必要な機能を得るには、基本、必須、およびオプションのパッケージをドライバに追加します。これらの手順は各ドライバに固有です。

手順については、[Identity Manager ドライバのマニュアルの Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/idm40drivers/\)](http://www.novell.com/documentation/idm40drivers/) 上のそれぞれのドライバガイドを参照してください。

- 6 カスタムポリシーとルールがある場合はドライバに復元します。方法については、[41 ページのセクション 4.16 「ドライバへのカスタムポリシーとルールの復元」](#) を参照してください。

ドライバは以前と同様に機能しますが、ドライバの環境設定ファイルのコンテンツの代わりにパッケージのコンテンツを使用するようになります。

4.15.3 現在のコンテンツを維持しつつパッケージを使用する新しいコンテンツを追加

パッケージに含まれる機能が、ドライバの現在の機能と重複しない限り、現在の状態のままドライバを維持しつつ、パッケージを使用して新しい機能を追加できます。パッケージをインストールすると、パッケージが既存のポリシーを上書きし、ドライバが動作しない可能性があります。

パッケージを使用してドライバに新しいコンテンツを追加するには

- 1 ドライバおよびドライバに含まれるカスタマイズされたすべてのコンテンツのバックアップを作成します。

方法については、[32 ページのセクション 4.8.2 「ドライバのエクスポートの作成」](#) を参照してください。

- 2 パッケージカタログにドライバパッケージをインポートします。

手順については、「[Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド](#)」の「[パッケージカタログへのカタログのインポート](#)」を参照してください。

- 3 ドライバにパッケージをインストールします。

手順については、[Identity Manager ドライバのマニュアルの Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/idm40drivers/\)](http://www.novell.com/documentation/idm40drivers/) 上のそれぞれのドライバガイドを参照してください。

- 4 ドライバに必要なパッケージを追加します。これらの手順は各ドライバに固有です。

手順については、[Identity Manager ドライバマニュアルの Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/idm40drivers/\)](http://www.novell.com/documentation/idm40drivers/) を参照してください。

ドライバには、パッケージによって追加された新しい機能が含まれます。

4.16 ドライバへのカスタムポリシーとルールの復元

カスタムポリシーまたはルールがある場合、新しいドライバ環境設定ファイルをオーバーレイした後にドライバに復元する必要があります。これらのポリシーに別の名前が付いている場合、ポリシーはドライバ内にそのまま保存されていますが、リンクが壊れているので、再設定する必要があります。

- ◆ [41 ページのセクション 4.16.1 「Designer を使用したドライバへのカスタムポリシーとルールの復元」](#)
- ◆ [42 ページのセクション 4.16.2 「iManager を使用したドライバへのカスタムポリシーおよびルールの復元」](#)


4.16.1 Designer を使用したドライバへのカスタムポリシーとルールの復元

次の 2 つの方法で、ポリシーをポリシーセットに追加できます。

- ◆ [41 ページの「アウトラインビューを使用したカスタマイズしたポリシーの追加」](#)
- ◆ [42 ページの「ポリシーフローの表示ビューを使用したカスタムポリシーの追加」](#)


アウトラインビューを使用したカスタマイズしたポリシーの追加

アップグレードしたドライバを運用環境に移す前に、テスト環境でこれらの手順を実行します。

- 1 アウトラインビューで、アップグレードしたドライバを選択して、*ポリシーセット* ビューを表示します。
- 2 カスタマイズしたポリシーをドライバに復元する必要があるポリシーセット  アイコンを右クリックし、*[新規]* > *[コピー元]* の順に選択します。
- 3 カスタマイズしたポリシーを参照して選択し、*[OK]* をクリックします。
- 4 カスタマイズしたポリシーの名前を指定し、*[OK]* をクリックします。
- 5 ファイルの競合を示すメッセージが表示されたら、*[はい]* をクリックしてプロジェクトを保存します。
- 6 ポリシービルダでポリシーが開いたら、コピーしたポリシーの情報が正しいことを確認します。
- 7 ドライバに復元する必要があるカスタマイズした各ポリシーに対して、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 6](#) を繰り返します。
- 8 ドライバを起動してテストします。
ドライバの起動の詳細については、[44 ページのセクション 4.19 「ドライバの起動」](#) を参照してください。ドライバのテストの詳細については、「[Designer 4.0.1 のポリシー](#)」の「[ポリシーシミュレータを使用したポリシーのテスト](#)」を参照してください。
- 9 ポリシーが動作することを確認したら、ドライバを運用環境に移します。


ポリシーフローの表示ビューを使用したカスタムポリシーの追加

アップグレードしたドライバを運用環境に移す前に、テスト環境でこれらの手順を実行します。

- 1 アウトラインビューで、アップグレードしたドライバを選択してから、[ポリシーフローの表示] アイコンをクリックします。
- 2 カスタマイズしたポリシーをドライバに復元する必要があるポリシーセットを右クリックして、[ポリシーの追加] > [既存の項目をコピー] の順に選択します。
- 3 カスタマイズしたポリシーを参照して選択し、[OK] をクリックします。
- 4 カスタマイズしたポリシーの名前を指定し、[OK] をクリックします。
- 5 ファイルの競合を示すメッセージが表示されたら、[はい] をクリックしてプロジェクトを保存します。
- 6 ポリシービルダでポリシーが開いたら、コピーしたポリシーの情報が正しいことを確認します。
- 7 ドライバに復元する必要があるカスタマイズした各ポリシーに対して、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 6](#) を繰り返します。
- 8 ドライバを起動してテストします。
ドライバの起動の詳細については、[44 ページのセクション 4.19 「ドライバの起動」](#) を参照してください。ドライバのテストの詳細については、「[Designer 4.0.1 のポリシー](#)」の「[ポリシーシミュレータを使用したポリシーのテスト](#)」を参照してください。
- 9 ポリシーが動作することを確認したら、ドライバを運用環境に移します。

4.16.2 iManager を使用したドライバへのカスタムポリシーおよびルールの復元

アップグレードしたドライバを運用環境に移す前に、テスト環境でこれらの手順を実行します。

- 1 iManager で、[Identity Manager] > [Identity Manager の概要] の順に選択します。
- 2 ツリーでその場所を参照して選択し、ドライバセットオブジェクトを検索してから、[検索] アイコンをクリックします。
- 3 アップグレードしたドライバを含むドライバセットオブジェクトをクリックします。
- 4 ドライバアイコンをクリックしてから、カスタマイズしたポリシーを復元する必要があるポリシーセットを選択します。
- 5 [挿入] をクリックします。
- 6 [既存のポリシーを使用する] を選択し、カスタムポリシーを参照して選択します。
- 7 [OK] をクリックし、[閉じる] をクリックします。
- 8 ドライバに復元する必要がある各カスタムポリシーに対して、[ステップ 3](#) ~ [ステップ 7](#) を繰り返します。
- 9 ドライバを起動してテストします。

ドライバの起動については、[44 ページのセクション 4.19「ドライバの起動」](#)を参照してください。iManager にはポリシーシミュレータはありません。ポリシーをテストするには、ポリシーを実行するイベントを発生させます。たとえば、ユーザの作成、ユーザの変更、またはユーザの削除などです。

10 ポリシーが動作することを確認したら、ドライバを運用環境に移します。

4.17 既存のドライバ環境設定ファイルと新しいドライバのオーバーレイ (非推奨)

Identity Manager 4.0.1 では、ドライバの環境設定ファイルの代わりにパッケージを使用します。このリリースには、新しい環境設定ファイルがありません。4.0 以降、すべての新しいドライバコンテンツは、パッケージを使用して提供されます。

開始前に、カスタマイズされたポリシーに、デフォルトのポリシーと異なるポリシー名が付いていることを確認します。ドライバ環境設定が新しいドライバファイルでオーバーレイされると、既存のポリシーは常に上書きされます。カスタムポリシーに固有の名前が付いていない場合、それらのカスタムポリシーは失われます。

既存のドライバに対して新しいドライバ環境設定をオーバーレイして、ドライバ環境設定ファイル内にある新しいポリシーまたは機能を持つドライバを更新します。

- [43 ページのセクション 4.17.1「Designer を使用した既存のドライバ環境設定ファイルと新しいドライバのオーバーレイ」](#)
- [44 ページのセクション 4.17.2「iManager を使用した既存のドライバ環境設定ファイルと新しいドライバのオーバーレイ」](#)

4.17.1 Designer を使用した既存のドライバ環境設定ファイルと新しいドライバのオーバーレイ

重要: データが失われないように、カスタマイズされたポリシーにはデフォルトのポリシーとは異なる名前が付いていることを確認してください。

- 1 モデラーで、アップグレードするドライバのドライバ行を右クリックします。
- 2 [環境設定ウィザードの実行] を選択します。
- 3 警告のページが表示されたら、[はい] をクリックします。
この警告は、ドライバ設定とポリシーがすべてリセットされることを通知していません。
- 4 アップグレード中のドライバのドライバ環境設定を参照して選択し、[実行] をクリックします。
- 5 ドライバの情報を指定して、[次へ] をクリックします。
情報を指定するページは複数表示される場合があります。
- 6 [結果] ページで [OK] をクリックします。

- 7 ドライバパラメータおよびポリシーを調べて、すべての項目が希望どおりに設定されていることを確認します。
- 8 カスタムポリシーがある場合、[41 ページのセクション 4.16 「ドライバへのカスタムポリシーとルールの復元」](#)に進みます。ない場合には、[44 ページのセクション 4.19 「ドライバの起動」](#)に進みます。

4.17.2 iManager を使用した既存のドライバ環境設定ファイルと新しいドライバのオーバーレイ

重要: データが失われないように、カスタマイズされたポリシーにはデフォルトのポリシーとは異なる名前が付いていることを確認してください。

- 1 iManager で、[\[Identity Manager\] > \[Identity Manager の概要\]](#) の順に選択します。
- 2 ツリーでその場所を参照して選択し、ドライバセットオブジェクトを検索してから、[\[検索\] アイコン](#) をクリックします。
- 3 ドライバセットオブジェクトをクリックします。
- 4 [\[ドライバ\] > \[ドライバの追加\]](#) をクリックしてから、新規ドライバウィザードページで [\[次へ\]](#) をクリックします。
- 5 オーバーレイするドライバ環境設定を選択して、[\[次へ\]](#) をクリックします。
- 6 [\[既存のドライバ\]](#) フィールドで、アップグレードするドライバを参照して選択します。
- 7 ドライバの情報を指定して、[\[次へ\]](#) をクリックします。
- 8 [\[概要\]](#) ページで、[\[このドライバおよびポリシーライブラリに関するすべてを更新する\]](#) を選択します。
- 9 [\[次へ\]](#) をクリックし、[\[概要\]](#) ページで [\[完了\]](#) をクリックします。
- 10 ドライバパラメータおよびポリシーを調べて、すべての項目が希望どおりに設定されていることを確認します。
- 11 カスタムポリシーがある場合、[41 ページのセクション 4.16 「ドライバへのカスタムポリシーとルールの復元」](#)に進みます。ない場合には、[44 ページのセクション 4.19 「ドライバの起動」](#)に進みます。

4.18 変換されたプロジェクトの展開




変換された Designer プロジェクトを識別ボールトに展開します。詳細については、[「Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド」](#)の[「展開とエクスポート」](#)を参照してください。

4.19 ドライバの起動


Identity Manager コンポーネントをすべてアップグレードしたら、ドライバを再起動する必要があります。起動後にドライバをテストし、すべてのポリシーが機能していることを確認することも重要です。

- ◆ [45 ページのセクション 4.19.1 「Designer を使用したドライバの起動」](#)
- ◆ [45 ページのセクション 4.19.2 「iManager を使用したドライバの起動」](#)


4.19.1 Designer を使用したドライバの起動

- 1 Designer で、識別ポールの  オブジェクトを [アウトライン] タブで選択します。
- 2 モデラーツールバーの [すべてのドライバを起動] アイコン  をクリックします。これにより、プロジェクト内のすべてのドライバが起動されます。
- 3 ドライバ起動オプションを設定します。
 - 3a [アウトライン] タブの [ドライバ] アイコン  をダブルクリックします。
 - 3b [ドライバ環境設定] > [起動時のオプション] を選択します。
 - 3c [自動開始] を選択するか、ドライバの起動方法を選択し、[OK] をクリックします。
 - 3d 各ドライバに対して、ステップ 3a ~ ステップ 3c を繰り返します。
- 4 ドライバをテストして、ポリシーが設計どおりに機能していることを確認します。ポリシーのテスト方法の詳細については、「Designer 4.0.1 のポリシー」の「[ポリシーシミュレータを使用したポリシーのテスト](#)」を参照してください。

4.19.2 iManager を使用したドライバの起動

- 1 iManager で、[Identity Manager] > [Identity Manager の概要] の順に選択します。
 - 2 ツリーでその場所を参照して選択し、ドライバセットオブジェクトを検索してから、[検索] アイコン  をクリックします。
 - 3 ドライバセットオブジェクトをクリックします。
 - 4 [ドライバ] > [すべてのドライバを起動] の順にクリックして、すべてのドライバを同時に起動します。

または

[ドライバ] アイコンの右上部分で、[ドライバの起動] をクリックして、各ドライバを別々に起動します。
 - 5 ドライバが複数ある場合、ステップ 2 ~ ステップ 4 の手順を繰り返します。
 - 6 ドライバ起動オプションを設定します。
 - 6a iManager で、[Identity Manager] > [Identity Manager の概要] の順に選択します。
 - 6b ツリーでその場所を参照して選択し、ドライバセットオブジェクトを検索してから、[検索] アイコン  をクリックします。
 - 6c ドライバセットオブジェクトをクリックします。
 - 6d ドライバアイコンの右上隅をクリックし、[プロパティの編集] をクリックします。
 - 6e [ドライバ設定] ページの [起動オプション] で、[自動開始] またはドライバの起動方法を選択し、[OK] をクリックします。
 - 6f 各ドライバに対して、ステップ 6b ~ ステップ 6e を繰り返します。
 - 7 ドライバをテストして、ポリシーが設計どおりに機能していることを確認します。
- iManager にはポリシーシミュレータはありません。ポリシーをテストするには、ポリシーを実行するイベントを発生させます。たとえば、ユーザの作成、ユーザの変更、またはユーザの削除などです。

4.20 ユーザアプリケーションのアップグレード

ユーザアプリケーション 4.0 サーバをアップグレードする場合、ユーザアプリケーション 4.0.1 にアップグレード可能なユーザアプリケーションの基本パッケージを準備する必要があります。Designer を使用したユーザアプリケーションドライバの作成に関する詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0.1 ユーザアプリケーション : インストールガイド](#)』の「[Designer でのドライバの作成](#)」を参照してください。

現時点では、4.0 以前のバージョンのユーザアプリケーションサーバは、4.0.1 に移行できません。この移行に関する詳細な手順については、4.0.1 がリリースされたらすぐに利用できるようになります。

4.21 Identity Reporting Module のアップグレード

Identity Reporting Module は、Identity Manager 4.0 以降利用できます。Identity Manager 3.6 から Identity Manager 4.0.1 にアップグレードする場合は、Identity Reporting Module をインストールして使用することができます。Identity Manager のメディアから Identity Reporting のインストーラを起動し、Identity Reporting Module をインストールできます。Identity Manager Reporting のインストールに関する詳細については、『[Identity Reporting Module Guide](#)』の「[Installation and Driver Configuration](#)」を参照してください。

Identity Manager 4.0 を使用している場合は、既存の Identity Reporting 4.0 Module の上に Identity Reporting 4.0.1 Module をインストールできます。Identity Manager Reporting のインストールに関する詳細については、『[Identity Reporting Module Guide](#)』の「[Installation and Driver Configuration](#)」を参照してください。

注 : Identity Reporting Module をアップグレードする前に、ユーザアプリケーションをアップグレードする必要があります。

Identity Reporting Module のアップグレードプロセスでは、イベント監査サービス (EAS) および Identity Reporting Module をアップグレードする必要があります。Identity Reporting Module のインストールプログラムを実行する前に、EAS のバイナリのアップグレードを実行する必要があります。

マイグレーションの実行

開始する前に、アップグレードとマイグレーションとの相違点を確認してください。11ページの第3章「アップグレードまたはマイグレーション」を参照してください。

- 47 ページのセクション 5.1 「マイグレーションのチェックリスト」
- 49 ページのセクション 5.2 「新しいサーバをドライバセットに追加する」
- 49 ページのセクション 5.3 「サーバ固有の情報のコピー」
- 51 ページのセクション 5.4 「ドライバセットから古いサーバを削除する」

5.1 マイグレーションのチェックリスト


Identity Manager システムのマイグレーションを正しく行うために、以下のチェックリストを使用して、すべてのステップを正しい順序で実行したことを確認してください。お使いの環境の Identity Manager サーバごとに、以下のステップに従ってください。

- ❑ Identity Manager の ISO ファイルをダウンロードしたことを確認します。詳細については、『*Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド*』の「Identity Manager の入手場所」を参照してください。
- ❑ Identity Manager ソリューションの現在の環境設定のバックアップを作成します。これは、ドライバのエクスポートを作成するか、または Identity Manager ソリューションの Designer プロジェクトを作成することによって行います。詳細については、30 ページのセクション 4.8 「現在の環境設定のバックアップの作成」を参照してください。
- ❑ 希望するオペレーティングシステムをインストールします。サポートされるプラットフォームのリストについては、『*Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド*』の「システム要件」を参照してください。
- ❑ サーバに eDirectory 8.8.6 をインストールします。詳細については、『*Novell eDirectory 8.8 インストールガイド* (<http://www.novell.com/documentation/edir88/index.html>)』を参照してください。
- ❑ 現在の Identity Manager サーバにあるのと同じ eDirectory のレプリカを、新しいサーバに追加します。詳細については、『*eDirectory 管理ガイド* (<http://www.novell.com/documentation/edir88/pdfdoc/edir88/edir88.pdf>)』の「レプリカの管理 (<http://www.novell.com/documentation/edir88/edir88/data/fbgciaad.html>)」を参照してください。
- ❑ Identity Manager 4.0.1 をインストールします。『*Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド*』の「基本的な Identity Manager システムのチェックリスト」に従って、すべての手順が完了したことを確認します。
- ❑ ドライバセットのいずれかのドライバがリモートローダドライバである場合には、ドライバごとにリモートローダサーバをアップグレードします。詳細については、38 ページのセクション 4.14 「リモートローダのアップグレード」を参照してください。
- ❑ (条件付き) この古いサーバがユーザアプリケーションサーバである場合には、以下の追加のステップを実行します。
 - ❑ NrfCaseUpdate ユーティリティを実行します。詳細については、「Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0.1 User Application: Installation Guide」の「NrfCaseUpdate ユーティリティの実行」を参照してください。

- ユーザアプリケーションドライバは Designer 内でマイグレートする必要があります。詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0 User Application: Migration Guide](#)』を参照してください。
- 新しい役割およびリソースサービスドライバを作成します。役割およびリソースサービスドライバは移行されません。既存の役割およびリソースサービスドライバを使用している場合、Identity Manager 4.0.1 用に新しいドライバを作成する必要があります。詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0 User Application: Migration Guide](#)』を参照してください。
- マイグレートしたユーザアプリケーションドライバを識別ポータルに展開します。詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0 User Application: Migration Guide](#)』を参照してください。
- この新しいサーバにユーザアプリケーションをインストールします。詳細については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0 User Application: Migration Guide](#)』を参照してください。
- 新しいサーバをドライバセットに追加します。詳細については、[49 ページのセクション 5.2 「新しいサーバをドライバセットに追加する」](#)を参照してください。
- ドライバごとに、サーバ固有の情報を変更します。iManager を使用する場合には、手動のプロセスです。3.5 バージョンより前の Identity Manager サーバから 3.5 以前の Identity Manager サーバに移行するのであれば、iManager を使用する必要があります。その他のサポートされるマイグレーションパスには、Designer を使用できます。詳細については、[49 ページのセクション 5.3 「サーバ固有の情報のコピー」](#)を参照してください。
- (条件付き)configupdate.sh または configupdate.bat を実行して、ユーザアプリケーション環境設定のために、サーバ固有の情報古いサーバから新しいサーバに変更します。詳細については、「[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0.1 User Application: Installation Guide](#)」の「[ユーザアプリケーション環境設定の参照](#)」を参照してください。
- (オプション)パッケージを使用できるようにドライバをアップグレードします。ドライバのすべてのコンテンツは、ドライバ環境設定ファイルの代わりにパッケージを使用して提供されます。詳細については、[39 ページのセクション 4.15 「ドライバのパッケージへのアップグレード」](#)を参照してください。
- (オプション)カスタムポリシーとルールをドライバに復元します。ドライバをパッケージに更新する場合、ポリシーが上書きされるので、パッケージを使用するためにドライバを更新した場合にのみポリシーを復元する必要があります。詳細については、[41 ページのセクション 4.16 「ドライバへのカスタムポリシーとルールの復元」](#)を参照してください。
- ドライバセットから古いサーバを削除します。詳細については、[51 ページのセクション 5.4 「ドライバセットから古いサーバを削除する」](#)を参照してください。
- Novell Sentinel を使用している場合、Novell Sentinel 6.1 に更新する必要があります。Sentinel のアップグレードに関する詳細については、『[Sentinel インストールガイド \(http://www.novell.com/documentation/sentinel6/pdfdoc/sentinel60_installationguide.pdf\)](#)』を参照してください。
- メタディレクトリサーバとアップグレードしたすべてのドライバをアクティベートします。詳細については、『[Identity Manager 4.0.1 Framework Installation Guide](#)』の「[Activating Novell Identity Manager Products](#)」を参照してください。

5.2 新しいサーバをドライバセットに追加する

iManager を使用している場合には、新しいサーバをドライバセットに追加する必要があります。Designer には、この手順を実行するサーバ用のマイグレーションウィザードが含まれています。Designer を使用している場合には、[49 ページのセクション 5.3 「サーバ固有の情報のコピー」](#) にスキップしてください。iManager を使用している場合には、以下の手順を実行します。

- 1 iManager で、 をクリックして、[Identity Manager の管理] ページを表示します。
- 2 [Identity Manager の概要] をクリックします。
- 3 ドライバセットを含んでいるコンテナをブラウズして、選択します。
- 4 ドライバセット名をクリックして、[ドライバセットの概要] ページにアクセスします。
- 5 [サーバ] > [サーバの追加] をクリックします。
- 6 新しい Identity Manager 4.0.1 サーバを参照して選択し、[OK] をクリックします。

5.3 サーバ固有の情報のコピー

各ドライバに保存されているサーバ固有のすべての情報を、新しいサーバの情報にコピーする必要があります。サーバ固有の情報は、次のものに含まれています：

- ◆ グローバル構成値
- ◆ エンジン制御値
- ◆ 名前付きパスワード
- ◆ ドライバの認証情報
- ◆ ドライバの起動オプション
- ◆ ドライバパラメータ
- ◆ ドライバセットデータ

これは、Designer または iManager で実行できます。Designer を使用する場合には、自動的なプロセスです。iManager を使用する場合には、手動のプロセスです。3.5 バージョンより前の Identity Manager サーバから 3.5 以降の Identity Manager サーバに移行するのであれば、iManager を使用する必要があります。その他のサポートされるマイグレーションパスには、Designer を使用できます。

- ◆ [49 ページのセクション 5.3.1 「Designer でサーバ固有の情報をコピーする」](#)
- ◆ [50 ページのセクション 5.3.2 「iManager でサーバ固有の情報を変更する」](#)


5.3.1 Designer でサーバ固有の情報をコピーする

このプロシージャは、ドライバセットに保存されているすべてのドライバに影響します。

- 1 Designer で、プロジェクトを開きます。
- 2 [アウトライン] タブで、サーバを右クリックして、[移行] を選択します。
- 3 概要を読んで新しいサーバにマイグレートされる項目を確認し、[次へ] をクリックします。

- 4 選択可能なサーバのリストからターゲットサーバを選択して、[次へ] をクリックします。
リストに表示されているサーバだけが、現在ドライバセットに関連付けられておらず、ソースサーバの Identity Manager のバージョンと等しいか新しいサーバです。
- 5 [ターゲットサーバをアクティブにする] を選択します。
3つのオプションがありますが、[ターゲットサーバをアクティブにする] が推奨されます。
 - **ターゲットサーバをアクティブにする** : ソースサーバの設定をターゲットサーバにコピーして、ソースサーバのドライバを無効にします。
 - **ソースサーバをアクティブのままにする** : 設定をコピーせずに、ターゲットサーバのすべてのドライバを無効にします。
 - **ターゲットソースサーバの両方をアクティブにする** : ソースサーバの設定をターゲットサーバにコピーし、ソースサーバまたはターゲットサーバのドライバは無効にしません。このオプションはお勧めできません。両方のドライバを起動すると、同じ情報が2つの異なるキューに書き込まれます。これは障害を起こす可能性があります。
- 6 [移行] をクリックします。
- 7 変更されたドライバを識別ボールドに展開します。
詳細については、「[Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1: 管理ガイド](#)」の「[識別ボールドへのドライバセットの展開](#)」を参照してください。
- 8 ドライバを起動します。
詳細については、[44 ページのセクション 4.19 「ドライバの起動」](#) を参照してください。

5.3.2 iManager でサーバ固有の情報を変更する

- 1 iManager で、 をクリックして、[Identity Manager の管理] ページを表示します。
- 2 [Identity Manager の概要] をクリックします。
- 3 ドライバセットを含んでいるコンテナをブラウズして、選択します。
- 4 ドライバセット名をクリックして、[ドライバセットの概要] ページにアクセスします。
- 5 ドライバの右上隅をクリックし、[ドライバの停止] をクリックします。
- 6 ドライバの右上隅をクリックし、[プロパティの編集] をクリックします。
- 7 古いサーバの情報を含むすべてのサーバ固有のドライバパラメータ、グローバル環境設定値、エンジン制御値、名前付きパスワード、ドライバ認証データ、およびドライバの起動オプションを、新しいサーバの情報にコピーまたはマイグレートします。最大ヒープサイズ、Java の設定などのグローバル環境設定値やドライバセットのその他のパラメータは、古いサーバの値と同一の値を持つ必要があります。
- 8 [OK] をクリックして、すべての変更を保存します。
- 9 ドライバの右上隅をクリックして、ドライバを起動します。
- 10 ドライバセットのドライバごとに、[ステップ 5](#) ~ [ステップ 9](#) を繰り返します。

5.4 ドライバセットから古いサーバを削除する

新しいサーバがすべてのドライバを実行するようになったら、ドライバセットから古いサーバを削除できます。


- ◆ 51 ページのセクション 5.4.1 「Designer を使用してドライバセットから古いサーバを削除する」
- ◆ 51 ページのセクション 5.4.2 「iManager を使用してドライバセットから古いサーバを削除する」
- ◆ 51 ページのセクション 5.4.3 「古いサーバの退役」

5.4.1 Designer を使用してドライバセットから古いサーバを削除する

- 1 Designer で、プロジェクトを開きます。
- 2 Modeler で、ドライバセットを右クリックし、[プロパティ] を選択します。
- 3 [サーバリスト] を選択します。
- 4 [選択したサーバ] リストで古い Identity Manager サーバを選択し、[<] をクリックして、[選択したサーバ] リストからサーバを削除します。
- 5 [OK] をクリックし、変更を保存します。
- 6 識別ポータルに変更を展開します。

詳細については、『*Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 管理ガイド*』の「識別ポータルへのドライバセットの展開」を参照してください。

5.4.2 iManager を使用してドライバセットから古いサーバを削除する

- 1 iManager で、 をクリックして、[Identity Manager の管理] ページを表示します。
- 2 [Identity Manager の概要] をクリックします。
- 3 ドライバセットを含んでいるコンテナをブラウズして、選択します。
- 4 ドライバセット名をクリックして、[ドライバセットの概要] ページにアクセスします。
- 5 [サーバ] > [サーバの削除] をクリックします。
- 6 古い Identity Manager サーバを選択して、[OK] をクリックします。

5.4.3 古いサーバの退役

この時点で、古いサーバがホストしているドライバはありません。このサーバが必要でなくなった場合は、追加の手順を実行し、サーバを廃止する必要があります。

- 1 このサーバから eDirectory のレプリカを削除します。

詳細については、『*eDirectory 管理ガイド* (<http://www.novell.com/documentation/edir88/pdfdoc/edir88/edir88.pdf>)』の「レプリカの削除 (<http://www.novell.com/documentation/edir88/edir88/data/fbgciaad.html>)」を参照してください。

2 このサーバから eDirectory を削除します。

詳細については、[TID 10056593, “Removing a Server From an NDS Tree Permanently”](http://www.novell.com/support/php/search.do?cmd=displayKC&docType=kc&externalId=10056593&sliceId=&docTypeID=DT_TID_1_1&dialogID=35218849&stateId=0%20%2035214815) (http://www.novell.com/support/php/search.do?cmd=displayKC&docType=kc&externalId=10056593&sliceId=&docTypeID=DT_TID_1_1&dialogID=35218849&stateId=0%20%2035214815) を参照してください。